予算決算審査委員会報告書

令和元年10月15日

備前市議会議長　立　川　　茂　殿

委員長　橋　本　逸　夫

令和元年10月15日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案　　件	審査結果	少数意見
議案第97号　平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について中、教育部関係の審査	―	―

予算決算審査委員会記録

招 集 日 時	令和元年10月15日（火）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　　～	午後3時56分	閉会
場所・形態	委員会室ＡＢ	閉会中の開催		
出 席 委 員	委員長	橋本逸夫	副委員長	田口豊作
	委員	尾川直行		掛谷　繁
		守井秀龍		中西裕康
		青山孝樹		藪内　靖
		西上徳一		石原和人
		森本洋子		星野和也
欠 席 委 員		土器　豊	川崎輝通	
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列席者等	議長	立川　茂		
説　明　員	教育部長	田原義大	教育振興課長	大岩伸喜
	学校教育課長	朝倉　健	幼児教育課長	波多野靖成
	文化振興課長	横山裕昭	社会教育課長	竹林幸作
傍　聴　者	報道関係	なし	一般傍聴	なし
審査記録	次のとおり			

午前９時３０分　開会

○橋本委員長　皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は１２名です。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会します。

審議に先立ち、さきの台風１９号が日本列島に上陸をいたしまして、甚大な犠牲を生じております。被災された皆さんあるいは亡くなられた皆様方に対して心よりお見舞いを申し上げます。

それでは、早速審査に移りたいと思いますが、本日は議案第９７号平成３０年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について、教育部関係の審査を行います。

該当ページを都度指定しながら審査を進めます。

まず、歳入から行います。

決算書は２２ページから、所管別分類表は３ページをおあけください。

決算書の２２ページから２３ページの間で質疑を希望される方ございませんか。

○守井委員　２３ページの負担金の保育園費負担金で、公立保育園保育料となっておるんですが、この内容を報告いただけますでしょうか。２９年度決算より２００万円ぐらいふえている状況なんですが。

○波多野幼児教育課長　おっしゃるように前年比で２００万円ほどふえております。園児数はほぼ横ばいですが、園児の中身におきまして、３歳から５歳は減少ぎみでございますが、ゼロ歳から２歳までがふえております。３歳から５歳まではほぼ６，５００円の保育料ですが、ゼロ歳から２歳までは９，５００円になります。中身の低年齢児の増加により、保育料がふえております。

○守井委員　３０年度から無償化しているという認識だったんですが、それは３歳児以上だけの話なんですかね。

○波多野幼児教育課長　無償化は段階的に２７年度から始まりまして、ゼロ歳になったのが２９年度であります。３歳児以上は、国のほうが無償化したこの１０月からの措置でありまして、保育料といたしましては実費負担分、給食費、それから教材費ということで、ゼロから２歳まではほぼ９，５００円、３歳以上は６，５００円徴収しているのが現状でございます。

○守井委員　わかりにくかったんですけど、保育料といえば保育の使用料みたいな感じに見えるんですけど、保育料という表現のほうが違うんじゃないんかというような感じがするんじゃけど、どんなですか。例えば食費代とか教材費とかという、そういうほうが正確な集め方じゃないんか思うんですけど、それはどんなんですか。

○波多野幼児教育課長　私どもの無償化になってからの保育料という名称でございますが、国のほうが実費負担分及び給食費のほうを保育料として徴収してよいという国の決まりのもとに徴収してまいりましたが、この１０月からは３歳から５歳のみ副食費を保育料から切り離して集めなさいということになっております。３０年度は全て保育料として徴収可能ということでその名称

を使っております。

○掛谷委員　関連なんですけども、この広域入所市町村負担金というのはどういう意味合いなのか、説明をお願いします。

○波多野幼児教育課長　広域入所でございますけども、市外から市内のほうに出産によります里帰り出産で子供を預ける、あるいはもともと市内の方がこちらのほうの事業所に通うということで子供を預けることが受け入れ可能なら可能となる制度でございます。市外の方がこちらに入ってきた場合、その市外の方の保育料、正規の保育料をうちは徴収して、残り必要な分は国、県から私どものほうに補助が入ります。逆に、私どものほうからほかの市に行った場合は、私どもの保育料をその市で払っていただいて、残り必要な分はその市が国、県から補助をいただくような制度でございます。

○掛谷委員　延べ人数というのは、今言う３歳、５歳、ゼロ歳、２歳があるんですけど、何名というところはわかりますでしょうか。

○波多野幼児教育課長　まず、受け入れのほうですけども、全部で６人であります。岡山市が４人、赤穂市が１人、和気町が１人です。年齢別でございますけども、ゼロ歳から２歳までが４人、それから３歳から５歳までが２人の計６人でございます。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次に移りたいと思います。

次の範囲が、２２ページから２９ページで、使用料及び手数料のうちの文教関係ということで範囲を指定します。

この間で質疑を希望される方。

○守井委員　２７ページ、教育使用料。社会教育使用料、美術館使用料、これは備前焼ミュージアムのことだろうと思うんですけども、若干昨年に比べて減っているような状況なんですが、これは２９年度か２８年度から市のほうへ移管したと思うんですけれども、利用状況とか、その経過の状況はいかがか、報告いただきたいと思います。

○横山文化振興課長　美術館使用料ということで、入館状況を御報告したいと思います。

まず、３０年度につきましては、８，８９２名ということでございます。開館日数は、２８１日。さかのぼりまして２９年度は１万１，０６０人、開館日数が３００日、２８年度につきましては９，２７６名で、開館日数が２９７日ということでございます。

○守井委員　それで、昨年に比べて大分売上金が少なくなっているようなんですけれども、今報告ありましたけど、１万１，０００から８，８００というような形で減っておるというような形なんですけども、日数が２０日ぐらい短いからかと思うんですけども、その辺はいかがなんでしょうか。

○横山文化振興課長　開館日数が若干少ないというのもあるんですが、岡山県が見舞われた西日

本豪雨の影響が多分にあったのかなあというふうに推測されます。

○守井委員　今年度の状況はいかがなんでしょうかね。

○横山文化振興課長　今、正確な数字は持っておりませんけども、今年度は企画展、特別展の状況もよろしくて、去年よりはふえているように聞いております。

○守井委員　結構宣伝もしていただいたり、こうしてお金もかかっているんじゃないんかと思うんですが、昨年に比べて利用がふえておるという認識で、美術館としての機能も十分果たしてきたという感覚で捉えとってよろしいでしょうかね。

○横山文化振興課長　担当の学芸員、それから文化振興課の職員一体となって展示の充実に努めているところでございます。

○尾川委員　２５ページの教育使用料で、小学校学校施設使用料が減額してきとるというふうなことが現状のようなんです。使用料が変わってきとる、下がってきとるというのはどういうふうに分析されとんですか。

○竹林社会教育課長　小学校、中学校の使用料ですけども、こちらにつきましては学校開放施設ということで、各種団体さんに御利用いただいているというところでございますけども、小学校につきましては１０校分、中学校については５校分ということで、スポーツ団体さん等の活動回数、こういったところで若干減少、小学校分については減少しているという状況でございます。

○尾川委員　ありがとうございます。それで、こっちが一番聞きたいのは、その使用料は減ったほうがええんか、ふえたほうがええんかというのは、それはいろんな見方があると思うんです。体育の振興という面で使うてもろたほうがええんかもしれん、地域のスポーツの振興にね。だけど、こういう中学校は上がっとると思うんですけど、そういう分析はされてないんですかね。どういうふうな感じにとられとんかなあと思うて。

○竹林社会教育課長　小学校につきましては、団体数としてトータル７１団体ということで、ニーズに合った形でそれぞれの施設、地区の方のスポーツ団体さんに御利用いただいている現状かなと思っております。

○尾川委員　要するに、言いたいのはもう高齢化でそういう人が少のうなってきとんか、それともこういう学校みたいな施設では限界が来とんか、そういう分析というのはされてないんかなというふうな感じがあって。それから、クラブみたいなもんとか、健康教室みたいなほうがええんか、単なるそういう体育館貸す、グラウンド貸すという、武道場を貸すというだけじゃなしにどうなんかなあと。すぐ返事ができんと思うんで、そういう視点、切り口で見てもらって、備前市の体育振興というか、どういうふうにしていこうとしとんかということも学校施設含めて一つのデータ、人は減ってきとるから使用料減るというのはようわかっとんですけど、そのあたりどういう、住民、市民がどういうふうなことを希望しとんか、あるいはその辺あたりを調査してもらえたらなというふうな感じなんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長　現状もいろいろ団体さんにもお聞きしながら、その辺の動向を見ていきた

いと思います。

○青山委員　先ほどのに関連してなんですけど、中学校の体育施設の利用なんですけど、ナイターで利用できるのは何校だったですかね。

○竹林社会教育課長　運動場ということでよろしいですかね。

　スポーツ施設として管理してますのは日生中学校のみだったと思います、中学校でいいますと。小学校でいうと、あと２校あります。

○守井委員　同じく２７ページ、高等学校使用料の授業料が大分減額になっているんですけど、補助金が出たのか、それとも人数が減ったのか、その辺はいかがですかね。

○大岩教育振興課長　生徒数の減でございます。４１名から３１名になっております。

○中西委員　２７ページの教育使用料、小学校使用料のところで行政財産使用料というのが３万９，５００円ありますけども、この行政財産というのは何でしょうか。

○大岩教育振興課長　吉永小学校の太陽光の屋根貸し利用料が３万４，５６０円、あと学校運動場の使用料ということで５件、１件当たり１，０００円のが５件ということで、３万９，５６０円でございます。

○中西委員　細かいことを聞いて申しわけないんですけども、去年との差が何でこんなに出てくるんでしょうか。

○大岩教育振興課長　前年度が３万５，５６０円、今年度が３万９，５６０円ということで、４，０００円今年度ふえているんですけど、小・中学校の運動場の使用料が５件、今年度貸していますけど、前年度が１件ということで４，０００円ふえております。

○中西委員　今のお話ですと、小学校の施設の使用料がふえたということなんですか。行政財産の使用料と区別されているので。

○大岩教育振興課長　学校の運動場使用料ということで５件今年度、旧日生南小学校が３，０００円と伊部小学校が１，０００円と日生中学校が１，０００円ということで、これは学校とかで催し物があるときに、例えば駐車場使用料だとかということでいただいているということで行政財産使用料ということになっております。

○中西委員　同じ２７ページの教育使用料、社会教育使用料、ここで行政財産使用料というのが出てくるわけですが、これは何を指すんでしょうか。

　それと、昨年度から見ると３０万円ほど違ってきているんで、どういう意味なんでしょうか。

○横山文化振興課長　こちらに上がっております４４万３，３２０円の内訳としましては、備前焼ミュージアムの屋上にあります携帯電話の基地局の設置分が２件で３３万９，１８０円、それから埋蔵文化財管理センターの隣にあります倉庫のところの旭川荘いんべ通園センターの駐車場代分９万７，６４０円と、大阪管区気象台の貸し地で６，５００円、これの合計で４４万３，３２０円が上がっております。

○中西委員　こういうものは、金額的には余り変動しないものですけども、昨年が７１万２，０

００円からだったと思うんですけども、今年度はどうしてこれがこういうふうに減額になるんでしょう。

○田原教育部長　記憶なんですが、昨年度文化振興のときに１年おくれで歳入が入ってきたという形で、その年度については歳入が多くなったと記憶しております。

○守井委員　２年分入ったんじゃろ。

○中西委員　昨年度が１年おくれで入ってきたものがあるというんですけど、今お伺いしていると大体余りおくれて入ってくるようなものは相手が相手だけに余りないような気がするんですけども、強いて言えば２９年度はどこだったんでしょうか。

○橋本委員長　２９年度分が１年おくれで入ってきたのはどこから入ってきたんかということを聞きよんです。

○横山文化振興課長　この携帯電話基地局がＵＱコミュニケーションズというところとソフトバンクのものなります。

まず、２９年度分がＵＱとソフトバンクで３３万６，４２０円、２８年度分のソフトバンクの２６万８，７８５円、どうも１カ月分は納めていたんですけども、１１カ月分が未納となっておった分を追加しまして、トータル６０万５，２０５円という内訳になります。

○橋本委員長　休憩します。

午前９時５０分　休憩

午前９時５１分　再開

○橋本委員長　それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ほかにございませんか、この該当範囲で。２２から２９ということで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

じゃあ、次の範囲に移ります。

２８ページから３３ページの間で、国庫支出金のうち質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員　３２、３３ページ、２つ聞きたいところあるんですけども、教育費国庫補助金の５節文化財保護費補助金、そこで史跡等購入事業補助金１，０００万円が補助金とされております。ここについて、お知らせを願いたい。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、文化財の名称としましては備前陶器窯跡になりまして、伊部南大窯の指定地内の４筆、３，０９２平米になります。

○掛谷委員　これは市単独、国の補助金が入っていますけども、県なんかはもうほとんどないと。これは国の補助のみですかね。

○横山文化振興課長　精算額としまして、備前市の負担額が２５０万１，４５５円になります。あとは国ですね。

○掛谷委員　次に、埋蔵文化財緊急調査事業補助金というのが３８８万９，０００円、ここでも補助金を受けております。これも同じような感じでどこの緊急調査をやられたのか。

○横山文化振興課長　こちらの調査につきましては、平成１６年度に策定しました史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づくものでございまして、熊山山麓南面に展開する中世備前焼窯跡のデータ化をしております。具体的には熊山山麓の航空測量、現地踏査等による備前焼の生産の場の立体的把握を行いました。

○掛谷委員　これも国、市と同じようなことなんで、内訳はどうなんでしょうか。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、備前市の負担額が３８９万３２２円となります。

○掛谷委員　６節の学校管理費の補助金についてお伺いします。

　４１ページの部活動指導員配置促進事業補助金が４０万４，０００円、これは３３ページの国庫補助でもありました。４１ページは、県の補助金で国と同じ額が計上されております。国、県、市は持ち出しがまずないのかどうかということと、これは何人どこどこに配置をされた、どういった部活動の配置をされたのか、その辺の詳しいところを教えてください。

○朝倉学校教育課長　部活動指導員の配置事業につきましては、３０年度から国、県、市、それぞれ３分の１ずつの事業になっております。したがいまして、市におきましても４０万４，０００円の費用がかかっております。

　それから、３０年度の実施校につきましては４校、備前中学校、伊里中学校、日生中学校、吉永中学校です。備前中学校は、バドミントン、伊里中学校がサッカーとソフトテニス、日生中学校がアーチェリー、吉永中学校がソフトテニス、以上の４校で５種目ということになっております。

○掛谷委員　そういう形で国の制度として採用されてきてるわけなんですけど、この指導者の方々がされることについてどういったいい効果が出ているのか、マイナスではないとは思うんですけど。要するに、教員の負担軽減というのが一つ、もう一つは専門の指導員でしょうから、いい結果が出てきているんかなと思ったりするんですけども、そのあたりはどのように分析をされておりますか。

○朝倉学校教育課長　成果につきましては、今委員おっしゃられた２点だと思います。その中で、この事業につきまして効果検証といたしましては、指導員の配置により部活動の顧問が他の授業に従事する時間がどれだけできたかというところで見ております。当初、目標といたしましては４１０時間の時間を生み出せるのではないかということで取り組みましたが、結果といたしましては３９４時間ということで、達成率９６％ということになっております。１００％じゃありませんが、効果は上がっているというふうに認識しております。

○掛谷委員　教員の負担軽減という意味でわかりました。

　もう一つは、専門の方々が指導されることによって部活が強くなったとか、そちらのほうの成果というのは何かあったんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　明確にこうなりましたというのはなかなか申し上げにくいところではありますが、専門的な指導をしていただくということで生涯スポーツであるとか、それから子供たち

の意欲とかというあたりにはつながっているのかなあというふうに思っております。

○尾川委員　今の関連で、今課長そういうふうに効果がないとは言わんけど、効果はあると。子供たちの反応を聞くことがあるんですか、教育委員会か、あるいは学校サイドで。部活のこういう先生の時間短縮というか、働き方改革だけで子供たちの技術的な向上とか、そういう面での、あるいは指導力というんか、どういう人が携わっとんか、専門家でどのくらい選手の実績がある人かどうかわからんですけど、そのあたりの評価というのは把握されとんですか。

○朝倉学校教育課長　先ほど２点、教職員の負担軽減と、それから子供たちの指導力のというようなあたりでこの事業の効果を申しましたが、もともとの国のこの事業の狙いといたしましては、どちらかというと教職員の負担軽減のほうにありますので、そちらのほうは先ほど申し上げたような効果検証はしておりますが、生徒の意欲とか、それから競技力の向上というようなあたりは調査はできておりません。

○尾川委員　先生のどっちつかずというか、そのあたりも生徒に対しての指導力がねえからというてバックして、ほな指導員頼まんのかというたら、またこれも問題あると思うんで、そういう面からもうちょっと子供たちがどういう捉え方しとんかということを、現役の先生とＯＢ的な人みたいな感じがすんですけど、そのあたりの指導力というんか、教育面から見たときの。学校内でやるということになったら、クラブチームじゃねえんじゃから、そら自分で希望してよそへ行くというわけにはいかんのんで、そのあたり少し着目して、あれもこれもというわけにはいかんと思うんですけど、生徒視点の立場からもある程度見てもらえたらなと思うんですけど、いかがですか。

○朝倉学校教育課長　御存じのように、中学校の部活動の指導者につきましても、なかなか専門種目の教員が指導できないという現状もございますので、ただその中で指導いただいているということなので、あからさまに指導員と、それから顧問の先生とでどうですかという聞き方はなかなか難しいのかなあとは思いますが、ただ生徒の意欲につながっているかどうかというようなあたりは気をつけて学校の現状等確認していこうと思いますので。

○尾川委員　具体的に言うたら、全日本で優勝しとる片上のがいて、邑中へ行ったんですよ。何で行ったかというと、ええ指導者がおるから行くということで。ああいうことで行けるんかどうかは別にして、そういうふうな子供もおるんですから、そういう視点で。ただ、先生の軽減、労働の軽減だけを目的にということじゃなしに、あれもこれもというわけにいかんですけど、そういう視点もあるということを課長は認識してもらいてえなあと思うて話ししよんですけどな。

朝倉課長。

○朝倉学校教育課長　先ほどお話があった生徒につきましては、一応転居しての通学という形になっております。ただ、委員おっしゃられたような内情も少なからずあるのかなあというふうには思っておりますが、今後そういった子供たちの競技力についての視点というのも持って話を聞いていこうかなと思います。

○青山委員　関連してなんですけど、ここに上げられている４校の種目というのは、学校側は専門的な指導をしてもらいたいというふうな形で頼まれとんじゃないんかなあと思うんです。むしろ教員の軽減ということよりは指導力、あるいは生徒への影響というようなことを考えられたと思うんで、その辺で尾川委員の言われたような観点でも調査研究していただきたいと思います。要望です。

○藪内委員　先ほどの尾川委員の質問に関連して、つい先日大きな事件、事故といいますか、鹿児島県の泉中央ですか、指導者が暴力振るったやつがありましたけど、指導者のそういう人格面というか、そういう選考はどのようにされているんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　指導員につきましては、学校でまず種目を決めていただいて、その後指導員についても探していただいている状況です。３０年度につきましては、先ほどの５名ですが、そのうちの４名につきましては非常勤講師で現任校に勤務されている方、非常勤講師は支援員で現任校に勤務されている方、それからもう一名につきましては高等学校の教員で指導歴のある方、もう一名につきましては民間で競技経験のある方ということで、学校のほうでも子供たちの指導をきちっとしていただける方ということで選考いただいておりますし、それからこの事業を行うに当たりまして、教育委員会のほうでも先ほど言われましたような不祥事等が起こらないように研修をした上で勤務のほうをお願いしておりますので、そのあたりはしっかり様子等も聞きながらとは思いますが、十分確認した上での採用ができていると認識しております。

○藪内委員　東須磨の先生の問題もありますし、実際の先生、それから外から頼まれる人に関しても厳重によろしくお願いします。

○守井委員　３３ページの学校管理費補助金で、収入未済額が３，３００万円というふうに年度が変わってから入ってくるんだろうと思うんですけれども、これの国からのお金が次の年に入ってくるんだろうと思うんですけど、どの事業でどういう理由でこういうことになっているのか、報告願えますか。

○大岩教育振興課長　こちらは空調設備の補助金と、小学校の特別教室の空調設備の補助金と、あと小学校のブロック塀補助金ということで繰越事業になりますので、事業が完成した今年度に入ってくる予定となっております。

○橋本委員長　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

次は、３４ページから４５ページまでで、県の支出金のうちの文教関係ということで指定したいと思います。

○掛谷委員　３８、３９ページ、７節の児童福祉総務費補助金、地域組織活動育成費補助金が６０万８，０００円ほどありますが、これは地域のどういうふうな活動に対する補助金なのかと。どの地域にどういった補助金を出しているのか、お伺いをしたいと思います。

○波多野幼児教育課長　地域組織活動育成費補助金でございますが、これは各保育園、こども園にいらっしゃる、昔でいいます母親クラブ、今は保護者会というんですけども、その活動に対して特に研修を行ったり、それから親睦行事を行ったり、そういったものに支出するものであります。昨年度実績が、全部で１２園、ただし２０人以上の保護者会を組織することが条件になっておりますので、１４園ありましたが、実際は１２園支出しております。支出額のほうは１５万２，０００円の１２園で１８２万４，０００円で、そのうち３分の１のほうを県のほうが補助していただいておりますので、６０万８，０００円歳入をしております。

○尾川委員　関連で、今話聞いて１２園で１５万円、１５万２，０００円というような話を聞いたんですけど、活動育成費とはどういう内容のことをやって、市として県が３分の１なんで、どういうかかわりを持ってどういう事業をやっとんか、詳細を教えてもらえたらと思うんですが。

○波多野幼児教育課長　活動の詳細でございますが、ＰＴＡ活動に近いようなことでございまして、保護者会でまず講師を呼んで、例えば家庭教育の学習をする、それから特に保育園、こども園の２、３号認定の方というのは日ごろ働いてらっしゃって横のつながりがないものですから、年に２回ほど子供を交えた親睦行事を行う、それからまた園への奉仕活動、それから地域行事にも参加をするというところで出している補助であります。私どもの幼児教育課のほうも、年に一度３月には活動内容とお金の使い方について監査を行うようにしております。

○尾川委員　それで、その金の一部が施設の整備とか備品とかというようなことでも構わんわけですか。

○波多野幼児教育課長　備品というよりも、園によっては絵本等の購入に充てるところもございますが、これはあくまでも保護者会からの寄贈という形にしております。

○中西委員　４３ページの県委託金のところでの基幹統計費委託金、学校基本調査委託金わずか７，０００円なんですけども、７，０００円で何ができるんかなというのが大変疑問に思いまして、これはどういうものを目的でしたものだったんでしょうか。

○大岩教育振興課長　こちらの委託金につきましては、５月１日現在の基準日で学級数であるとか、児童・生徒数であるとか、教員数の配置であるとかといったところを県から委託されたものに対しまして、回答した分に対する県の委託金でございます。

○守井委員　４５ページの教育費県委託金、教育研修諸費委託金、放課後学習サポート事業委託金、小中一貫をやっていたのかなあというような感じなんですけど、３０年度の実績と、それからその下の小学校の不登校対策実践研究事業委託金の事業内容を報告いただけますでしょうか。

○朝倉学校教育課長　まず、放課後学習サポート事業委託金につきましては、３０年度は希望する１０校で実施をしております。小学校が７校、中学校が３校です。小学校は、香登小、伊部小、片上小、伊里小、三石小、日生東小、吉永小、中学校３校は伊里中、日生中、吉永中であります。

　それから、小学校における不登校対策等実践研究事業につきましては、これ登校支援員の配置

ということで、長欠になる子を防止するということで、なかなか学校に来にくい子に対して本来教員が声かけをしたりするところを、支援員を配置することによって学校へ足が向くようにとしている事業であります。

○守井委員　登校支援のほうが１００万円ほどふえてるんですかね。それは登校指導員がふえたということなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　希望する学校に対しての配置ということになりますので、３０年度は片上小学校、日生東小学校、吉永小学校で実施しております。実績による増ということであります。

○守井委員　先ほどの放課後サポート事業のほうで小・中というようなことなんですけど、内容はどういう内容でやられているんですかね。

○朝倉学校教育課長　それぞれ対象は違うんですが、これも地域の方でありますとか、場合によっては非常勤講師、教育支援員等で学校に入っておられる方に放課後の時間を使いまして学習指導のお手伝いをしていただくという事業であります。

○守井委員　登校支援員の増員によって登校率というのもかなり上がっておるんかなあというような感じなんです。こっちの評価のほうにもあるんですけれども、昨年はかなり率が上がって、ことし横ばいみたいな感じで、その成果はどんなんですか。

○朝倉学校教育課長　全体の学校の状況ではありますが、実施している学校につきましては事業の実施によって不登校の増加は防げているということで、おおむね良好な評価をいただいております。

○掛谷委員　今の不登校の関連でお聞きするんですけども、希望する学校が手を挙げてやると。今回が片上と日生ということなんですけど、こういったものが逆に言いますとそういうところが余りないところはそういう手を挙げてないという意味合いで、片上、日生が特に問題とはいいませんけども、そういう対策を講じたいということでやっておられるんですけども、そういう傾向があって手を挙げられているのかというのが一つ。もう一つは具体的に訪問活動なんかやっているんじゃないかと思うんですけども、今成果の話はまあまあという話ですけど、どういった具体的な活動内容をされておるのかというところもあわせて２点お聞きしたいと思いますが、どうでしょうか。

○朝倉学校教育課長　先ほどもお話をいたしましたが、全ての小学校に情報提供した上で、特に課題を感じている学校がこの事業に手を挙げているというふうに認識しております。

　内容につきましては、学校へ来にくい児童に対しまして家庭へ迎えに行くというようなこと、それから学校に来た後なかなか教室へ入りにくい状況のときに、その支援員が横へついて指導しながら教室へと導くというような活動を主にしていただいております。

○掛谷委員　もう一つお聞きしたいのは、支援員は片上に１名、日生に１名ということでよかったでしょうか。

○朝倉学校教育課長　片上小学校は１名でお願いしております。それから、日生東小学校も１名

ですが、吉永小学校につきましては２名の方でお願いしております。これは毎日なかなか都合がつきにくいということで、２名で５日間をカバーしている状況です。

○尾川委員　関連なんですけど、この不登校対策というのは、この施設評価シートには小学校のことはどうもよう書いてねえんですけど、その事業というのは来年もあるんですか。それで今後どういうふうに教育委員会として捉えて、その不登校対策というのを考えられとんですか。その辺説明してください。

○朝倉学校教育課長　この県の事業につきましては、本年度も実施しております。それから、不登校につきましては、小学校の事業なんですが、中学校になって不登校になる子につきましては、小学校のときから欠席がちであったりとか、登校渋りが見られる子が多い傾向はございます。ですから、県につきましても、市につきましても、小学校の早い段階から登校渋りをなくすることで、ひいては施策評価等で上げております中学校の不登校出現率の低下にもつながるのかなあというふうに考えております。

○尾川委員　効果があるということなんですけど、今３校小学校名前が出たんですけど、数が多いというか、そういう捉え方でなくて、全校に広めていくというか、不登校対策というのをこういう支援員を配置するという考え方はないんですか。

○朝倉学校教育課長　あくまで希望でということですので、実施しております３校の状況、あるいは成果等もそれぞれの学校にお伝えすることによって学校でこの事業を有効であろうと思って使っていただくのが一番かなあと思うておりますので、その成果についてはほかの学校にもお知らせをしながら、希望するところには積極的に配置していこうと考えております。

○尾川委員　それで、この予算というのはもう上限限られて、もうこれ枠ということは何か県のほうで弾力的に運営できるような要素があるんですか。

○朝倉学校教育課長　一応、この事業につきましては県のほうで日数、時間数等を決められておりますので、その時間数を満たすもので、かつ県の予算の範囲内であれば認められるかなあというふうに思っております。

○尾川委員　ぜひこの不登校対策というのは継続して細かいのをやってほしいと思うんですが、その点いかがですか。

○朝倉学校教育課長　委員おっしゃられたとおり、不登校というのは防ぎたいという気持ちは非常に強く持っております。この事業の活用もですが、そのほかの施策についても今後研究をしながら、不登校を防ぐ取り組みは大切にしていこうと思っております。

○守井委員　関連で、中学校の不登校出現率はここの事業評価に出てるんですけど、小学校の不登校の出現率というのはチェックあるいは計算実績として出されとる成果があるんか、ないんか、その辺お聞きしたい。３０年度わかれば教えていただけたら。

○朝倉学校教育課長　３０年度につきましては、問題行動等調査の結果がもうしばらくすると公表されると思いますので、また改めて後日その報告をさせていただけたらと思っております。

○中西委員　４５ページの教育費県委託金、教育研修諸費委託金の小学校における不登校対策実践研究事業委託金、私は事業の中については今回ここではお伺いをしないわけですが、昨年度が１４９万８，０００円の決算になって、その前年度は３３１万８，０００円と、年度によってこんなに差が出てくるものなのかどうなのか。これは県のほうが備前市のほうに上げますよということよりも、備前市のほうがこれだけ下さいということで上げてるいるのか。先ほどからのお話を聞きますと、不登校はふえているんじゃないかというふうな感じもするんですが、どうして年度によってこんなに金額の浮き沈みが激しいのか、お伺いをしたい。

○朝倉学校教育課長　事業につきましては、希望する学校は全て一応上げておりますが、先ほどの県の基準を満たした場合には県による補助対象になりますが、県の基準を満たさないものも予算要求を以前したことがございます。ただ、実施といたしましては継続的な実施ということで、県のほうから対象校として認められたところを実施校として行っていることによって増減が出ているというふうに認識しています。

○中西委員　そうしますと、ここに出てくる県の事業委託金というのは、県の基準に沿った基準で出されていると。備前市における小学生の不登校の出現とは余り関係がないものだというふうになるんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　県の事業の活用ということでここは上げておりますが、ただ県の基準を満たさないところもそういう不登校に対しての取り組みが必要なところにつきましては、教育支援員を配置しております。教育支援員とか非常勤講師等を配置しておりますので、基準を満たさないけれども、必要がある学校につきましては、そうした市費で雇用している方を活用して、同様の取り組みをすることは可能ということで、学校のほうにはお話をしております。

○藪内委員　４５ページ、９目２節社会教育総務費委託金、中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業委託金の具体的内容をお教えください。

○竹林社会教育課長　こちらの委託金につきましては、歳出のほうでいいますと中高生だつぴです。３０年度は３回実施しておりまして、そちらの経費に充当しているものでございます。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

４４ページから４７ページの範囲で財産収入のうちの文教関係ということで。

質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員　４６、４７ページ、利子及び配当金のところの米百俵基金積立金利子８４万円、これは結構な利子が入っております。額も大きいんですけども、どういう金融機関に配分されて、どれぐらいの利率なのか含めて詳しく教えていただきたいと思います。

○大岩教育振興課長　これは２億５，０００万円そのものにかかっている利子なんですけど、運用は会計課にお願いしているもので、その辺の中身につきましては勉強不足なもんで、申しわけ

ございません。

○掛谷委員　これは教育委員会所轄でしょ。違うんだったらいいけど。

○大岩教育振興課長　利子及び配当金の米百俵基金積立金利子８４万２１７円の運用益についてなんですけど、今会計課のほうで一括管理をしていただいております。基金全体の話として、金額としましては定期制の預金が６８億円。それから、債権は１０年物の国債であるとか２０年物の国債、これが３９億円、それからあと普通預金が３１億円ということで運用をしております。

主な利子につきましては、定期預金は幅があるんですけども、０．０８％から０．３％、国債のほうですけど、こちら中銀であるとか証券会社になるんですけど、０．２％から１．３％、これで運用をしております。これを基金の残高を月で案分いたしまして計算したものが、８４万２１７円となっておりますので、米百俵基金だけで幾らというような設定はないんですけども、全体での一括運用でこういった利益が上がっております。

○掛谷委員　表現はそういう表現の仕方しかできないん、米百俵だけではできないということでやむを得ん表現だということで理解していいんですよね。

○橋本委員長　理解しとってください。

○守井委員　４７ページの物品売払収入の書籍・冊子売払収入のうち文化振興課所管が４３万１，１００円あるというようなことなんですけど、重立ったところだけでいいんでどういう冊子を販売されたんか、報告願えますか。

○横山文化振興課長　各企画展、特別展等で発行している図録等になります。備前焼ミュージアムではこの４３万１，１００円のうち２７万９，９００円、それから歴史民俗資料館では８万８，５００円、文化財係のほうで４万円というふうになっております。

○守井委員　冊子じゃなくて図録がほとんどなんですか。

○横山文化振興課長　そのとおりでございます。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

４８ページから５３ページまでの間で寄附金とか繰入金でございます。そのうちの文教関係について質疑を希望される方おられますか。

○守井委員　４９ページの文化施設費寄附金なんですが、備前焼ミュージアム寄附金、これは陶友会からのものだろうと思うんですけども、いつまであるか、報告願えますか。

○横山文化振興課長　当時５年間寄附するということで、平成２７年から令和元年度までになります。

○守井委員　ということは、今年度までということで理解しとってよろしいんですか。

○横山文化振興課長　そのとおりでございます。

○尾川委員　関連するんですけど、前聞いたら２８年て聞いとんじゃけど、２７年度ですか。５

年というは聞いとんじゃ。

○横山文化振興課長　２７年からでございます。

○尾川委員　それから、たしかそのときの話で、年１００万円という話を聞いとったと思うんですわ。記憶がある。それが、例えば９５万円とか、１００万円切っとるというのはどういう理由で下がったり上がったりしよるわけ。

○横山文化振興課長　当時の確約書でいいますと、従前に陶友会会員が納めた会費相当分を５年間にわたり寄附するということになっておりますので、会員数の増減により変化しているものだと思われます。

○尾川委員　同じことを言うんじゃけど、最初１００万円、それはアバウトできとんかもしれんけど、１００万円というて聞いとる。陶友会の会員の会員数というか、その現状でいくというふうな話はなかったように思う。それは間違いないですか。

○横山文化振興課長　確約書には毎年１００万円というような金額の記載はございません。委員さんが言われたように、私も１００万円というふうに聞いてはおりましたけども、現状こういうふうになっております。

○橋本委員長　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

５２ページから５５ページの諸収入のうちの文教関係。

質疑を希望される方おられますか。

○中西委員　５５ページの奨学資金貸付金元利収入、奨学資金返還金というのがありますが、これは昨年度と単純に比較すると１００万円少ないわけですけども、これは人数とすれば幾らぐらいの人が返しているんでしょうか。

○竹林社会教育課長　一番上の奨学資金返還金、こちらの分につきましては現年分としまして、３０年度でいいますと対象人数としましては３８人おられます。

○中西委員　去年との差が出てくるのはどういうことなんでしょうか。

○竹林社会教育課長　ちなみに去年でいいますと対象者が４４名おられたというところで、繰上償還等もございまして、人数が減少しているものと思われます。

○中西委員　つまり返すべき人の人数が少なくなってきていると思ったらいいわけですか。

○竹林社会教育課長　こちらについてはそういうことでございます。

○守井委員　同じことなんですけど、調定額が１，０２１万円というようなことになって、収入済額が４３０万円と、半分以下なんですよね。払えない状況があるというように見えるんですけど、何らかの対策をやっていかないといけないんじゃないかなというような感じがするんですけど、どんなんでしょうか。

○竹林社会教育課長　１，０００万円のうち半額程度が滞納分ということで今残っている現状で

ございます。そういった方につきましては、年２回程度は電話催告等も行いながら、場合によっては訪問等も行っているという状況でございます。

○守井委員　年で５，０００円かぐらいの支払いになるんかわからないんですけど、１人当たり大体どのくらいの返還金をお願いしているんですか。

○竹林社会教育課長　１人当たりというのは具体的には出てきませんけど、こちらの５２７万円程度滞納分の調定がございますけども、こちらに対する対象者としては１５名おられるというところが現状でございます。

○守井委員　整理か何かして頑張ってもらって、奨学金を受けられるぐらいの人ですから、いろいろ熱心な人だろうと思うから、払う気になったら払えるんじゃないんか思うんで、できるだけそれを解消するような方策を考えにゃいけないんじゃないんかな思うんです。その点何か対策を、通常どおりじゃなくて何か考えにゃいかんのじゃないんか思うんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、その方の現状等も、なるべく接触して現状もお聞きしながら対応、訪問などもやっていきたいと思っています。

○守井委員　事情がある場合なんか減免できるような制度をつくってあげて、清算できるような形も考えたらいいんじゃないんか思うんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長　今のところ、減免というような制度はございませんが、ほかの債権等もあわせてどういったやり方があるかということも研修していきたいと思います。

○中西委員　関連で、さっきの課長のお話ですとこの３６８万２，５４６円に対して３２人となると、平均３２人が返しているということですよね。３２人が返してこの金額となるとなると大体皆さん１人年間幾らぐらいを返しておられるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　先ほど申し上げました３６８万円に対して３８人対象者がおります。

○中西委員　１人お幾らぐらいに大体なるでしょうか。

○竹林社会教育課長　今平均出してみますと、年で９万７，０００円弱になるのかなあと。

○橋本委員長　よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の範囲に移りたいと思います。

５４ページから６３ページの間の諸収入で社会教育費、文化振興費、教育振興課と幼児教育課の所管部分で質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員　５６、５７ページ、１４節の職員給食費徴収金が１，１９５万円ほどあります。これは小学校、中学校の関係の職員の給食だと思うんですけど、まずその内訳、それから１食当たりは幾らぐらいを徴収されているのか、お聞きしたいと思います。

○波多野幼児教育課長　この分につきましては、幼児教育課の所管分でございます。

パートさんも含めまして約１６０人の職員に対しまして１食３００円、２０日平均の１２カ月分でございます。

○青山委員　同じ５７ページの１９節入場料及び参加料なんですけど、スポーツ教室・大会参加料というのが６万２，０００円なんですけど、これはどういうふうな内容なんでしょう。

○竹林社会教育課長　こちらの参加料につきましては、まず陸上競技の教室が１万２，０００円、それからテニススクールが１万７，０００円、それからソフトテニス教室が３万３，０００円という内訳になってございます。

○中西委員　雑入のところで、この別紙２を見ますと、機械設置料、ＡＴＭ設置料というのがありますが、これは１４万４，２２０円、教育振興課ということになってるんですけど、このＡＴＭというのはどちらにあるんでしょうか。

○大岩教育振興課長　教育委員会の片上分庁舎にあります農協さんのＡＴＭでございます。

○中西委員　続きまして、入場料及び参加料で、イベント参加料１万７，５００円があるんですが、これは何なんでしょうか。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、備前焼ミュージアムのワークショップ参加料の１万４，０００円と、加子浦歴史文化館の郷土料理教室のほうの参加料３，５００円になります。

○中西委員　続きまして、同じページの入場料及び参加料のところでの公民館講座受講料なんですけども、昨年が１８万３，５００円、今年度の２８万９，７００円、これは１０万円からふえてますんで、ふえた理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、地域公民館で行っています講座等でございますけども、中央公民館、日生地域公民館、吉永公民館等の講座の参加料となっています。その中で、今回ふえていますのは新たな講座を中央公民館等で実施したものに対する参加料が増額になっております。

○中西委員　新たな講座というのはどういうものがふえたんでしょうか。

○竹林社会教育課長　具体的な講座としては宇宙の学校というような講座を新たに３０年度は実施をしておりまして、そのあたりの参加料の増かと思います。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、文教関係歳入全般を通じて質疑漏れはありませんか。

○石原委員　２７ページなんですけれども、社会教育使用料の美術館使用料、２９８万８，６１０円ですけれども、こちらの施設の内訳はどうなんでしょうか。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、備前焼ミュージアムの入館料のほうが２９８万８５０円と、吉永美術館の使用料のほうが７，７６０円となります。

○石原委員　たしか、加子浦の歴史文化館のお部屋を使ったら幾らとかあったように、そっちはないんですかね。

○横山文化振興課長　加子浦につきましては、別途加子浦歴史文化館使用料というのがあるんですけども、３０年度の利用は市の主催の利用のみで免除となっております。

○石原委員　それから、ほぼ備前焼ミュージアムということなんですけれども、備前焼ミュージアムにおける入館者の方の内訳というんですか、一般であったり、中学生以下であったり、６５歳以上であったり、どこまで規定されとったか記憶にないんですけど、内訳がわかれば。

○横山文化振興課長　一般的な大人につきましては、個人と団体とあるんですが、個人につきまして１８０万６，０００円、団体で１４万５，６００円、それから高校、大学生につきましては５万５，２００円と団体で１万９，０００円、６５歳以上で、これが備前市と赤穂市、上郡の場合、個人が２万７５０円、団体はございません。それから、備前、赤穂、上郡以外での個人が７５万６，８００円、団体が１２万８，４００円、その他で岡山旅ネットクーポン等で入られた方が４万２，８００円、団体が２，０００円、その他割引で４万３，０００円というふうになっております。

○石原委員　ありがとうございます。金額の内訳細かく御説明をいただいたところなんですけれども、もう単純に、中学生以下が何人さんだったかというたりするのは決算ですから金額は発生せんけん、わからんのですかね。

○横山文化振興課長　中学以下では２４３人、それから学校教育で５２５名の児童・生徒等が入っております。

○石原委員　じゃあ、先ほど御説明あった８，８９２名から先ほどあった中学生以下合わせて７６８名を引いたのが有料の入館の方という捉えでよろしいですか。

○横山文化振興課長　その他障害者の方等が若干おられます。そこも人数には積算しておりますけども、入場料は免除と。御本人が１９６、付き添いが１３１でございます。

○掛谷委員　６２、６３ページ、３８節教育費雑入で特定教育助成金５７万円が決算されております。この内容について教えてください。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、福武教育文化振興財団からの助成金ということになります。内訳としましては、体験学習で行っています小学校の英語研修、こちらに対しまして１５万円、それから英語力向上事業、こちらで２７万円、先ほどもありましたけど、中高生だっぴ、こちらに対しましても１５万円の内訳になっております。

○掛谷委員　そこで一つだけお伺いするんですけども、ベネッセからの補助金、助成金を受けてやっています。なかなか一遍に英語の習得というのは難しい。どういった成果というか、英語力というんか、英語に親しむということが一番の目的なんでしょう。そういった意味でのこの助成金活用がどういったメリットが出てきているのか、そのあたりの効果についてもお伺いしたいんですけど。どういうふうに分析されていますでしょうか。

○竹林社会教育課長　小さいころから英語に親しんでいただくということで、いろいろな体験学習と絡めましてこういった英語に触れる機会を設けさせていただくということで、そういった英語に対するなれといいますか、そういったものの向上に期待されていると感じております。

○掛谷委員　そこで、２つ追加で教えてほしいんですが、これはいつまで続く事業だったんかな

と。これはベネッセから助成金を受けているので、多分その報告、事業をした成果ですね、こういうふうなことをやりましたという報告はベネッセにはされているとは思うんですけど、どういうふうなことになっているんでしょうか。

○竹林社会教育課長　例年募集等もありまして、該当する事業がございましたら応募させていただいているという状況でございます。また、事業に対しまして実績報告、それはもちろん提出をしているという中で、先ほども言いましたけども、ふだんの生活の中では触れることができないというような中で、こういった事業の中で外国人等とも触れ合い、英語の学習の意欲を高めていただくというようなことでの実績ということで報告はしております。

○掛谷委員　具体的にどこでどういうふうな形で、おやりになっているのか。ｉＰａｄなんか使ったりしたようなことが何かあったような記憶をするんですけど、具体的にその中身について、もうちょっと詳しく教えてください。

○竹林社会教育課長　まず、イングリッシュキャンプにつきましては、閑谷の教育センター、こちらのほうで実施をしております。

　あと、英語の体験学習につきましては、いろいろな現地のほうでやっていますけど、伊部地区、頭島地区とか、現地に行きまして英語でのコミュニケーション、外国人の方と触れ合うという場を提供させていただいております。

○掛谷委員　それは地区の要請じゃなくて、小学校の要請でそういう形になってやっているんか、教育委員会としてそれを何か募集というか、こういうことをやるという、どこが采配を振るっているのか、小学校か、教育委員会か、地域は違うと思うんだけど、そのあたりはどういうふうになっているのかな、これは。

○竹林社会教育課長　基本的にはこちらの教育委員会のほうで市内全域一応いろいろなところで、吉永でも実施はしておりますし、全域において実施するようにしております。

○掛谷委員　実施した一覧表でも提出いただければと思いますけど、ありますか。出していただきたいんですけど。

○竹林社会教育課長　一覧表か何かわかるものを提出したいと思います。

○中西委員　６３ページ、教育費雑入でお尋ねをしたいんですが、市体育協会補助金返還金８万２，３２４円というのが計上されています。理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、２９年度分の事業に対しまして補助対象経費としては見れない対象外経費があるということで精査しまして、３０年度で補助金のほうを市のほうへ体育協会から返還をしております。

○中西委員　その上の市の青少年健全育成推進本部補助金返還金、この返還の理由は何なんでしょうか。

○竹林社会教育課長　こちらも２９年度の事業のものになりますけども、必要経費が決算額に対しまして補助金額未満であったと。本部の運営費、こちらの差額について市のほうへ返還をして

いるものでございます。

○中西委員　としますと、大体この健全育成推進本部補助金というのは、補助金を出している会計というのは単年度の会計で精査しているということなんですか。よく見るのは補助金をそのまま次年度へ繰り越しをしているというようなことがあるんですが、ここはそういうやり方をやっているわけですか。

○竹林社会教育課長　基本的には単年度で見ながら精算するようにしております。

○橋本委員長　ほかに歳入関係でございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、歳入関係を終了したいと思います。

この際、暫時休憩をいたします。

午前１１時０３分　休憩

午前１１時１６分　再開

○橋本委員長　それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

それでは、次に歳出に入ります。

決算書は１１０ページから、所管別分類表は４ページをお開きください。

それでは、所管別分類表に基づきまして、幾つか範囲を分けていきたいと思います。

まずは１１０ページから１１９ページで民生費、児童福祉費につきまして、文教関係に関係する質疑を希望される方は挙手願います。

○藪内委員　１１５ページ、１３節委託料、警備委託料に関連して。

２園に、監視カメラが設置されていないとお聞きしましたが、必要であるからほかの園にはつけているのでしょうから、今後その２園に設置予定とかありますでしょうか。

○波多野幼児教育課長　まず、日生につきましては認定こども園になったときにつけます。それから、香登のこども園、それから西鶴山保育園は来年の予算計上をして監視カメラをつけるつもりにしております。

○掛谷委員　そこの関連で一つだけ教えてほしいんですが、つけたものがどういうシステムで、例えば不審者に入ってとられたとか、何か荒らされた、いろんなことがあったことについてカメラでそれを見て分析するんだと思いますが、そういったケースが一つはあったのかということと、どういうシステムに流れとしてはなっているんかというところを教えてほしいんです。

○波多野幼児教育課長　ただいまの御質問ですが、園の中につきましてはセコム、それからＡＬＳＯＫ等の警備会社と非常警報装置のほうで対応しておりまして、現在使っております監視カメラは園の玄関から駐車場付近を写すものであります。園の職員室には専用のパソコンを置いておりまして、録画したものが再生できるようになっております。設置以来の使用例ですが、今のところ駐車場のトラブルで見せていただきたいと言われた件が１件のみでございます。

○尾川委員　１１５ページの賃金のところで、まず１点目が臨時雇い賃金の２億円。これの人員

は何人ですか。

○波多野幼児教育課長　資料の１１ページ、１２ページがことしの３月のデータでございます。まず、幼稚園の臨時雇いが２人と１０人で１２人であります。それから、次のページですが、保育園の現状についてのほうにこども園の２、３号認定も入っておりますので、４３人と２３人、合わせまして６６人でございます。

○尾川委員　今、人数聞いたんですけど、課長はこの臨時雇い賃金の１人当たりの計算したことはあるん。どういう認識持っとられるん。

○波多野幼児教育課長　１人当たりでいいますと、フルタイムの方と、６．５時間、４時間、それぞれ違いはございますが、賃金表にありますフルタイムの方で月額１７万円、６．５時間の方で１２万円、パートの方は時給１，０６０円が適用されるものということでございます。

○尾川委員　一遍年収という感覚でざっくり１人当たり何ぼとか、２００万円とか、３００万円とか、そういう捉え方とか、それから年収という形で比較したり。というのが、保育士足らんというて処遇が悪いという声を聞くわけですわ。どっこもそういう声があって、例えば行政職に比べたら非常にだんだんカーブが、角度が違うからもう定年になるようになったら相当の行政職と保育士との差というのが、そら仕事の内容も能力も違うから賃金違うて当たり前かもしれんけど、そういう感覚で見てみて、例えば他の自治体との比較して初任給高え、高えというて言うけど、実際ほいじゃあ１０年たったらとか、ある程度何歳とかある時点をとって比較したりして、一遍そういう見方でチェックしてほしいんですわ。

　そしたらまた、違った処遇というか、待遇の面での見方が出てくると思う。そら、賃金ばあで競争せえでも、どうしても弱えところが人とれんというのはわかっとんですけど、うちらもよう経験しとるから。だから、その辺をもうちょっと切り口変えて年収とか、賞与含めて年収とか、それからいろんな年代とかというのを見て、ただ初任給が高けえんですと、それで賞与はあります。賞与何ぼあるんならというようなことを、そういう見方でぜひやってもらいたいと思うんですが、いかがですかね。

○波多野幼児教育課長　フルタイムの方につきましては、年収がおよそ２３０万円前後ぐらいになるのではないかと思います。特に、４時間パートの方、６．５時間パートの方につきましては、その賃金のみの比較ということで今頭に入れておりましたが、年間幾らになるかということにつきましては、改めて私どももその考えを入れまして、ほかとの比較等をしてみたいと思います。

○尾川委員　今、２３０万円という認識があるということを聞いてほっとしたんです。ほっとしたというんか、こんくらいの金額じゃというのをみんな知っとかないけんのじゃけど、そういう保育士の賃金について取り沙汰されとるけど、見方でぜひただよそと同じにせにゃあ保育士の取り合いになると思うんで、そういう面で見て、あるいは教員の賃金と比較したりということもある面見方は必要だと思うんで、どういうふうにあるべきかということを考えて保育士の補充をぜ

ひ考えてほしいと思うんですが、どんなですか。

○波多野幼児教育課長　現在の待機児童対策で一番急がれるのは保育士の補充と考えております。次年度の補充もその辺のパート６．５時間、それから給与に加えて園での活動のしやすさというのも考慮に入れながら募集を図っていきたいと思います。

○掛谷委員　尾川委員の関連ですけども、正職を見ましたら幼稚園が２８名、それから保育園が６１名、お聞きしたいのはフルタイムが２３０万円、これは役職がついているんで、一概に言えないんですけども、正職については何百万円から何百万円ぐらいの範囲の年間収入がなっているのかというのを、今のフルタイムと考え合わせてみますと知りたいところなんですけど、どんなんでしょうか。

○波多野幼児教育課長　おおよそでございますが、新採用の方につきましては３００万円足らずから一番筆頭であります園長、園長の中でも主幹教諭というのが２名ございまして、きっちりとした金額のほうは私のほうでは出ませんが、７００万円前後であろうかなと想定しております。

○掛谷委員　ありがとうございます。

気になるのは、６．５、４時間とかというところはそれぞれの事情があって、御本人の御希望もあったりしてうまく運用されるところもあるんですけども、フルタイムの人が正職にしていくということを本人が望んでいる、望んでいないというようなことをアンケートなり、そういったケースはあるんじゃないかと思うんですけど、そういうフルタイムでありゃもうやめるケースも出てくるけども、正職になったらやめるということもないんかなあと思ったりしますんで、このところのフルタイムの正職への変わっていくというか、そういうところの分微妙なんですけども、現場の今声というんか、フルタイムの声というのはどういうように調査されてるんかなと思うんですけど、どうでしょうか。

○波多野幼児教育課長　まず、臨時職員につきましては、私どもの正職の試験の中で経験者枠という試験がございます。現在、３０歳から５０歳までで３年以上フルタイムを経験した人が受けられる試験でございますが、臨時の対象者の中でも特にフルタイムの方には園長のほうから面談をして、この試験を受けるかどうかというのは必ず聞いてもらっております。

それから、ほかの若い職員で臨時職員の方につきましては、もう一度採用試験を受ける機会というのはあると思いますので、これは正職員をもし落ちても臨時職員の募集はしますからというのを必ず試験のときに申し上げて、臨時で来られる方についてはまた次の試験を受けていただくよう努めております。

○掛谷委員　もうこれで終わりますけども、園長が試験を受けて受かったら正職になると、若い方もそういう形があると。平成３０年度も、３１年度のことを言うたら語弊がありますけど、これで昇格というんか、正職になった方々というのは結局どれぐらいおられるんでしょうかね。

○波多野幼児教育課長　うちの臨時職員から正規職員になった先生は１名、それから他市町村をずっと試験が残念な結果できている方がうちを受けたら通りまして１名、ですから御質問の内容

からすると臨時から正職は１名でございます。

○掛谷委員　これはどういうふうに分析されていますか。そういうふうな流れでもっとしたげるべきなんか、もう試験通らなんだらいかんということなんで、もうしょうがないんか、どういうふうに担当の方たちは思っておられるのか、感想なりいろいろ聞かせてください。

○波多野幼児教育課長　なぜ試験を受けないかということにつきまして、園のほうにお聞きしたことがございます。正職員になるということについての覚悟あるいは責任の重さについて後ろ向きになる方もいらっしゃいますし、６．５時間以下の方については今の時間が私の生活に合った時間というように認識されている方が多いようでございます。

○中西委員　１１３ページの保育・幼稚園費の２の給料、一般職給料というところでお伺いをするわけですが、資料の１１ページ、特に１２ページを見てみますと、保育士の数で正規職員、園長を含むという中で、園長の３級、４級が６人、保育士の１級が４２と。保育士２級が５と。保育士の給料表がそんなにたくさん段階に応じてあるわけじゃないということが前提ですけども、それにしてもこの表を見る限り保育士の１級はすごく多いと。しかし、２級以降になっていくと少ないと。主任２級、３級、管理職になっていくとそれは別なんでしょうけども、１級と２級のところで多い。これは幼稚園の教諭のところを見ても同じようなところで、あと臨時とパートで補われているというような形になりますと、勤続年数のところで新しく就職した方が長く勤めてないんじゃないんかというような感じにこの表から単純に見ると思うんですが、それはいかがなんでしょうか。

○波多野幼児教育課長　私がここに来たのは平成２９年でございますが、それ以前の１０年間ほどほとんど保育士の新規の採用がなかったというのを聞いております。ですので、今の４０代後半から５０代前半の園長クラスと、それからその下の若手職員と中堅職員と言われる層の４０代前半までの間にかなり採用がなかったときの空白があると聞いております。そのため、１級から主任までの間もかなりの数字のラグがあるんではないかなあというふうに感じております。

○中西委員　職員の採用に当たっては、年齢的なバランスも含めて、管理職になる幹部職員をつくっていくことも含めてバランスよく配置をしていくことが必要じゃないかと私は思うんです。そういう意味では、この１０年なかったと、採用がなかったということを聞いて私もびっくりしています。ほかの職場でもそういうような採用がなかったがゆえに、逆にそこのセクションを民営化せざるを得ないというようなところに至っているところもあるというふうにお伺いをするんですが、どうしてこの１０年間そういった採用がなかったんでしょうか。幹部職員、あるいは保育園を運営するに当たってもそれはかけがえのない人材であったということからして、そういう人員配置がどうしてされなかったのか、採用がされなかったのか、わかる範囲でお答えいただけたらと思います。

○波多野幼児教育課長　部局のほうは、保育園は市長部局の福祉事務所、幼稚園のほうは教育委員会というふうに分かれておりましたので、統一性が図られてなかったことと、それから単独保

育園でベテランの方も多く、そうやめられる方もいなかったのではないかというふうに推測されます。

○中西委員　最後のところの単独保育園でやめられる方がいなかったと。こども園になったということが大きな重圧になっているんでしょうか。

○波多野幼児教育課長　認定こども園になりますと、幼稚園としての生活と、それから保育園としての生活、あるいは幼稚園で勤めてらっしゃった方は当然８時半から５時１５分で、子供がいる時間も１４時には降園していたのが、こども園になりましたら朝の７時から晩の７時まで、延長保育も通して当然それ用の人員も必要ですし、人員がうまく配置できない場合は、朝の残業分、それから夜の残業分としてかかってまいりますので、その点が非常に人員が必要になるといったことではないかと思います。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

次は、１６８から１７３ページで、教育費、教育総務費について質疑を希望される方、挙手願います。

○中西委員　１７０ページの教育総務費、事務局費のところで共済費ですかね。この最後の同款社会教育費、社会教育総務費、共済費へ６万７，３５５円、これについて理由をお聞かせ願いたいと思います。

○橋本委員長　暫時休憩いたします。

午前１１時４３分　休憩

午前１１時４５分　再開

○橋本委員長　引き続き委員会を再開いたします。

先ほどの質問の部分は後刻詳細についてお知らせください。

○中西委員　同じ１７１ページの旅費、これは昨年度から見ると費用弁償では２９年度が７万円、普通旅費が１４万２，０００円ということで大幅に変わっているわけです。ここの不用額も含めてどうしてなのか、利用をお聞かせ願いたいと思います。

○朝倉学校教育課長　費用弁償につきましては、中学校の道徳の教科書採択に係ります選定委員、研究委員等の旅費であります。お願いした委員の方によって実費お支払いをしておりますので、減少となっております。

それから、旅費につきましては小中一貫全国サミットでありますとか、小中一貫に係る出張のほうにつきましては、小中一貫教育について備前市独自に行っていたときには出張に値するものが県費の出張の対象になりにくかった状況がございました。したがいまして、備前市で研究しているので、備前市の旅費を使って行っていただいておったんですが、全国的に小中一貫教育ということが言われまして、県費での出張の対象となるものがふえましたので、予算としては計上し

ておりましたが、執行が少なくなっているという状況であります。

○中西委員　１７１ページ、賃金、スクールバス運転員賃金で、どうしてこれが厚生の市民協働課になっているのか、教育部になっていない理由についてお尋ねをさせてください。

○大岩教育振興課長　以前、直営の市営バスと、学校のスクールバス関係、給食運搬車関係を公共交通課で運転員の一括管理ということと、あと車、修繕、車検、全て管理事務所のほうで一括管理するということで、今もそれが引き続いて市民協働課で一括管理となっております。

○青山委員　１７３ページ、教育研修諸費の８節報償費の中のアドバイザー謝礼というのが１１４万４，０００円あるんですが、どういう方に支払われたのか、何人そういう方がおられるのか、どこへ配属されているのか、教えてください。

○朝倉学校教育課長　このアドバイザー謝礼が、先ほどの放課後学習サポート事業の支援員の方であります。したがいまして、対象校は先ほど申し上げたとおりの対象校になります。人数につきましては、昨年度５８名ということになります。

○青山委員　一般の方にお願いされていると思うんですが、こういうふうな方の選定というのはどういう基準でやられとんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　支援員でお願いしている方というのは退職教員、非常勤講師、あるいは学生のボランティア、地域の方ということになります。お願いする方につきましては、学校で探していただいている状況です。

○中西委員　当初の予算ではここは２１万円の講師謝礼が上がっていました。これは講師謝礼というのはなくなったんでしょうか、それともアドバイザーの謝礼の中に含まれてしまったんでしょうか、その理由についてお聞かせ願いたいと思います。

　その講師謝礼２１万円が使われないことによって、不用額も多分この２０万６，０００円になっていると、ではないかと思うんですが。

○朝倉学校教育課長　ここにつきましては、放課後学習サポート事業の講師の支払いのみという形になっております。

○橋本委員長　何であれがなくなったのか、予算計上の段階であったものがなくなったのかという質疑なんですけど。

○朝倉学校教育課長　教員研修につきましては、謝金が発生しない文部科学省の講師をお願いしたということが１点、それからＩＣＴの研修会の講師謝礼につきましては、学校からの謝金を要する講師の依頼がありませんでしたので、その分執行しておりません。

○中西委員　その上になりますけども、教育総務費の事務局費の中での２１の貸付金、１７３ページ、奨学金貸付金がありますが、予算と比べますとここは２００万円ほど減額になっています。なるのは恐らく人数の問題かなと思うんですが、この人数は何人を予定されていて、実際には何人だったのか、お聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長　こちらの奨学金の貸し付けにつきましては、種類として第１種、第２種、

それから海外資金ということでおおむね３種類ございますけども、実績としまして継続分が昨年からの継続分が７名、それから新規で３０年度から始まった方が７名となっております。予算上は、第１種、第２種をおおむね３名程度ずつ、あと海外留学につきましても一、二件程度を予定しております。そういった中で、実績に予算との差額ということになっております。

○中西委員　ここは人数と金額を少し一覧表にして教えていただけませんでしょうか。後で結構です。

○竹林社会教育課長　はい。

○尾川委員　１７１ページの１３の委託料の中、廃棄物等処理委託料で６０万７，４４７円が上がっとんですが、この内容等教えていただきたいんですけど。

○大岩教育振興課長　低濃度のＰＣＢの処分業務の委託料でございます。

○尾川委員　このＰＣＢ、まだ出るんですか。

○大岩教育振興課長　教育委員会の学校関係のほうは、今のところ出るということは把握をしておりません。

○尾川委員　同じことを毎回言よんじゃけど、ＰＣＢなんかの処置というのはもう当然もう行われて済んどる話のように記憶しとんですけど、どうしてこれまだ出てくるんですか。３１年度はどんなんか忘れとるけど、どんなんですかね。

○大岩教育振興課長　高濃度につきましては、受け入れ施設のほうが順次予約というんですか、とれませんでしたので、繰り越ししております。期日は忘れたんですけど、処理期限がありますんで、それに合わせて処分のほうを今しているところでございます。

○尾川委員　今残っとる現状を小学校とか中学校、現状というのはまだようけ残っとんですか。保管はそれでどういうふうにしとんですかね。

○大岩教育振興課長　高濃度以外は残っておりません。

○尾川委員　高濃度は何ぼ残っとんですか。

○大岩教育振興課長　日生西小学校の安定器４個、日生中学校の安定器６０個でございます。

○中西委員　１７５ページの委託料ですけども、ここで電気保安管理委託料が当初の予算では１７９万１，０００円、ここの理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長　契約管財課のほうで備前市内の施設を一括入札していますもんで、その関係で入札によって安価になったということでございます。

○中西委員　続きまして、その下の委託料のところで昇降機保守管理委託料、これが当初の予算では７４万６，０００円、昨年度の決算が、２９年度の決算が５４万３，０００円と、この金額について理由をお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長　昇降機、ダムウエーター、伊部、日生西、東、吉永にあるんですけども、建築基準法の改正によりまして、法的点検を義務づけられたことから、単価が１万８，３６０円から３万２，４００円と上がっておりますので、そのことによる増額であります。

○中西委員　あわせて、この委託料自身に繰越明許が１，１６０万円生じてましたので、この理由は何なのか、教えていただけたらと思います。

○大岩教育振興課長　空調設備でございます。特別教室の空調設備ということで、３６教室で設計業務が６５０万円、施工管理業務が５１０万円でございます。

○掛谷委員　１７５ページの１３節委託料のＡＬＴ配置事業委託料５，４５４万円、それとあわせて、中学校は２，７６０万円、小・中あわせてお聞きしたいんですけども、委託先はどこでしょうか。

○朝倉学校教育課長　株式会社インタラックになります。

○掛谷委員　インタラックとの契約というのは継続をされていくもんかということと、毎年入札みたいに変わっていくもんかというようなところが気になるところですけど、それはどういうふうな形になっていますか。

○朝倉学校教育課長　毎年度プロポーザルを行いまして、業者のほうを選定しております。

○掛谷委員　プロポーザルで毎年ということで、それは学校教育において継続した方がある程度されてのほうが、毎年変わっていくんがどちらがいいかなかなか難しいんですけど、お金の問題と拝察します。そういう意味で、これプロポーザルで安くて済むということが教育に果たしていいのかどうか、どういう観点でこういう委託をプロポーザルをやっているのか、そのポイントについて、学校教育という意味ではということが一番だと思うんですよ。費用というのは二の次、三の次だと思うんですよ、べらぼうに高くなければね。どういう観点でこのプロポーザルを実施して採用していくんかというところを教えてください。

○朝倉学校教育課長　小学校も中学校も、英語の授業につきましては基本的には担任あるいは英語科の教員が行うようになっています。ＡＬＴにつきましては、その補助をしていただいているということになります。したがいまして、プロポーザルを行う段階では英語教育についてどのような見通しを持っているか、どういった提案をしていただけるかというあたりを重視しながら行っております。もちろんプロポーザルをすることによって幾分安価になるというところはございますが、備前市の場合教員免許状を持ったＡＬＴの配置ということも求めておりますので、質は担保できるように十分配慮している状況であります。

○掛谷委員　契約を結ぶわけなんですけども、そのＡＬＴの自由度、学校での授業を教えるというのは当然ですけども、学校以外でのその方のＡＬＴ活用というのが可能になっているんですか。それは無理なんでしょうか。契約上はどういう形になっていますか。

○朝倉学校教育課長　毎年、そういったお話もございますので、学校教育に支障のない範囲で活動の範囲を広げていっておりますし、今後も非常に高額の予算をつけていただいておりますので、活用というところは研究して、年々研究している状況ではございます。ただ、あくまで学校での英語教育の充実というのが大前提ですので、それに影響がない範囲で今後も検討してまいっている状況です。

○橋本委員長　ちなみに、１人当たりは平均どれぐらいのお金がかかってるでしょうかね。割ってみりゃわかるんですけども、何人でこれだけとか、小学校、中学校で１人当たり。

○朝倉学校教育課長　正確なところはわかりませんが、５４０万円ぐらいになるのかなと思っております。

○森本委員　草刈作業等委託料が１８万５，０００円ほどなんですけど、これ当初予算が８４万円からとってあって、毎年８０万円ぐらい使われていると思うんですけど、どうしてこの３０年度だけ１８万円なのか、理由を教えてください。

○大岩教育振興課長　通常、片上小学校ののりのところというんですか、あれと東鶴の小学校ののりのところを委託していたんですけども、直営でうちの職員がしましたので、その残りでございます。

○守井委員　１７５ページの委託料、上から３行目の浄化槽維持管理委託料が２９６万円ということになるんですけれども、これはどこどこの小学校が対象になっとんでしょうかね。

○大岩教育振興課長　東鶴山小学校と伊里小学校、西鶴山小学校でございます。

○守井委員　伊里も下水が入っているんじゃないんか思うんですけど、あるいは西鶴か、西鶴は農集があるじゃないですか。あそこはエリアになってないんですか。

○大岩教育振興課長　エリアになってございませんので、浄化槽を委託しております。

○橋本委員長　それでは、審議中途ですが、昼食の休憩をいたします。

午後０時０８分　休憩

午後１時００分　再開

○橋本委員長　それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

質疑の対象範囲を、この際１８３ページの教育費、高等学校費までを対象といたします。

その間で質疑を希望される方どうぞ。

○青山委員　１７２、１７３ページの教育研修諸費、１９節の負担金補助及び交付金の中の難聴言語障害教育研究協議会負担金というのがあるんですけど、どういうふうな内容であるのか、教えてください。

○朝倉学校教育課長　伊部小学校に通級指導教室がございます。通級指導の障害種別が言語障害の学級になりますので、その伊部小学校の通級指導教室が対象となっております。

○青山委員　これは伊部小学校に難聴のお子さんがおられるということでしょうか。ほかの学校はどうなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　難聴・言語障害とあるんですが、言語障害の通級指導教室になります。ことばの教室というのがありまして、備前市内では伊部小学校にしかございません。ただ、市内のほかの学校でも言語の関係で、吃音であるとか、そういった障害を持っている子供さんが他校の通級ということで通っておられます。

○尾川委員　１６９ページ、事務局費の報酬で教科書用図書選定委員会委員報酬で１万５，００

０円ですが、３０年の回数等の活動を教えてください。

○朝倉学校教育課長　教科用図書選定委員会につきましては２回開催いたしております。報酬の支払いの対象の委員が３名おられます。そのうち１名の方が１度のみの出席でしたので、３，０００円掛ける５回という形になっております。

○尾川委員　前から指摘があります教科書選定の方法について、教育長は従来の形に戻すというような話を聞いた記憶があるんですけど、そのあたりはどういう動きになっとんですか。

○朝倉学校教育課長　現段階では、以前教育長が申し上げましたとおり、備前市の規模では厳しいということで協議を持ちかけている状況であります。

○尾川委員　協議の段階で、まだ結論は出てないんですか。

○朝倉学校教育課長　そのとおりであります。

○尾川委員　ＩＣＴの関係で電子教科書とかというふうな時代になって、備前市だけで選定というと偏るんじゃないかと思うんですよ。委員が多けりゃええというもんじゃねえんですけど、ある程度いろんな意見を聞きながら選定していくということが必要なんじゃないかと思うんですけど、ある程度期限を切るとか、来年度実施するとか、その辺の考えはどんなんですか。

○朝倉学校教育課長　ほかの市町の状況もかかわっておりますので、この場で今どういう状況ですというのがなかなかお伝えできない状況ではありますが、委員おっしゃられたようになかなか備前市の学校の中だけで行うのは厳しいというお話をしながら協議を進めている状況ですので、また状況がわかり次第報告はさせていただこうと思っております。

○尾川委員　同じ話になるんですけど、私らどっちかというたら先生仲間で決めていきゃあええから、割かしそうこだわりなしに決まっていくんかなあと。要するに、先生が備前市から出たり入ったりするわけじゃから、意外と流動的な面があるから。勝手なことを言よるのはわかっとんですけど、備前市が。というのはわかっとんじゃけど、意外と固執するというか、障害というんか、こだわりがあるんかなあと思うて、意外とそういう私らの認識と違うんですけど、先生の世界でもなかなか困難な面があるんですか。

○朝倉学校教育課長　採択時期については県のほうで定めることになっていますので、県のほうの手続等も経なければならないということがありますので、市の考えだけでなかなか進むことができないという状況であります。

○藪内委員　１７３ページ、１９節特色ある学校づくり補助金３３１万円の事業内容をお教え願います。

○朝倉学校教育課長　これはふるさと学習を支援する事業であります。学校の独自の取り組みを支援いたしますので、さまざまな活動をしておるんですが、ただ近年それぞれの学校の地域の特色に応じた事業かどうかということで補助のほうを決めております。ですから、日生中でいえば海洋学習、カキの授業でありますとか、学校によったら米づくりでありますとか、伊部小でいえば備前焼の焼成でありますとか、そういった授業に対する補助をしております。

○掛谷委員　その下の市教育研究部補助金（小・中・合同）で、どういった研究活動をやっておられるのかということと、研究部以外に幾つかの部会があるんですか、その辺も含めて教えていただきたいと思います。

○朝倉学校教育課長　はっきりした数は覚えていないんですが、それぞれの小学校、中学校のそれぞれの教科、それから小・中合同であるものでは例えば学校管理、校長の集まり、教頭の集まり、それから学校保健、それから図書館教育等々ございます。それにつきまして、以前は備前市のほうで研究指定を当てておって、研究指定校ということで何年かに一回研究をしていただいておったんですが、校長会等々のお申し入れでこの会が立ち上がりましたのは、教職員が独自に調査研究を進めていって指導力の向上を図るということで備前市教育研究所というのが立ち上がっております。授業研究でありますとか、あるいは研修会を行いながら教職員の資質向上、それから子供への指導の還元ということで取り組んでおります。

○掛谷委員　そうしますと、学校長というよりもそれぞれいろんな部会の得意な先生が責任者というか、そういうふうなことにも変わってきてるというふうに判断したらいいんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　小学校につきましては、校長、教頭で２０名おりますので、小学校部会はほぼ管理職が部長をしながら行っておりますが、中学校は校長、教頭ということになると１０人になりますので、一般の先生が部長でされているところもございます。対象としては管理職、一般の教員、養護教諭、事務職員含めて全ての教職員が対象となっております。

○尾川委員　１７７ページの小学校の図書費についてお伺いしたいんですけど、私全体的に教育関係の予算というのがだんだん下がってきとるように見とんですよ。小学校の教科書の予算は、令和元年度が２１３万円で、１０万円弱は上がっとんですけど、他の自治体と比べたら生徒数の問題あるけど、瀬戸内と比較したらそんなに生徒数も物すごく違わないと思うんですけど、結構予算的には差がつきつつあるんで、そのあたりの考え方はどんなんですかね。

○大岩教育振興課長　図書費の算定基準は普通交付税のクラス数、生徒数によって一応基準をしたもので配分しております。ただ、備前市の場合、図書館司書等をもう全校に配置しておりますので、そういった方とも連携しながら学校と望んでいる図書というのを今後とも聞いてまいりたいとは考えております。

○尾川委員　瀬戸内の小学校の図書費の予算とか決算を見たことありますか。

○大岩教育振興課長　申しわけございません。見てないです。

○尾川委員　後からあげるけど、課長の答弁は耳たこできるぐれえ何遍も聞いとるけど、新しい本で読もうか思う本を置いちゃらんと、数があるからええというもんじゃねえから。少し発想を転換してもうて、ぜひ子供とか小学校、中学校の備前市教育の町というんなら、標榜すんなら充実した形でぜひ考えて、減せえというから減していくというんじゃなしに、ぜひ頑張ってもらいたいと思うんですけど、いかがですか。

○大岩教育振興課長　そういったことも図書館司書と学校関係、どういった図書が必要なのかと

いうこともお聞きしながら図書費がすぐには増額にならんかもしれんですけど、図書費の購入について考えていきたいと考えております。

○守井委員　１７７ページの負担金補助及び交付金の給食費補助金の２，０５７万円、これは小学校が対象ということですが、３０年度の実績を報告いただきたいと思います。１子、２子、３子、それぞれ人数、要保護者は除くんだろうと思うんですけれども、実績を報告願います。

○大岩教育振興課長　１，３３３人全校生徒でございます。第２子の半額補助が４４３人で１，１５７万１，５５０円、第３子以降全額補助が１７３人で９００万３，０３６円、対象者数が合計で６１６人ということで２，０５７万４，５８６円となっております。

○守井委員　１，３３３人から６１６人を引いたのが第１子ということなんですか。

○大岩教育振興課長　第１子のとり方なんですけども、例えば働いているお兄さんがいまして、親の医療保険に入っていなくて、中学校で義務教育が１人いると、その方は第１子と考えます。単純に一人っ子というわけではございません。

○守井委員　じゃから、第１子相当という感じの言い方ですりゃあ、７１７人が第１子相当ということでよろしいんですかということなんです。

○大岩教育振興課長　そのとおりでございます。

○守井委員　要保護の人数はこれには入っていないと思うんですけども、何人になるんですか。

○大岩教育振興課長　要保護は小学校で１８７人となっております。

○守井委員　それで、給食費の補助金が２９年度が２，１００万円ぐらいだったのが、３０年度の決算では２，０００万円ほどになってるんですが、これはどういう理由でしょうか。

○大岩教育振興課長　第１子のカウントが変わってきたのと、２子、３子の子供さんが減ったということでございます。

○守井委員　ということは、基本的に人数が減ってきたという解釈でよろしいんですか。

○大岩教育振興課長　要保護、準要保護の人数はそんなに変わっておりませんので、人数が減ったということで御理解いただきたいと思います。

○守井委員　給食費も２９年度の途中からというような形で３年目を迎えるようなことになるんだろうと思うんですけど、今後はどういう方向へ行こうとされているんでしょうか。

○大岩教育振興課長　例えば第１子義務教育課程の給食費を全員２分の１にしましたら約５，０００万円必要になります。それから、全額補助の場合は約１億円が必要となります。今、こういった感じで第２子以降半額、第３子以降全額ということになっておりますけど、今の段階ではすぐに半額であるとか、全額補助というところは考えてございません。

○守井委員　国の補助も幼稚園だかどっか職員も補助しようとかという話が出てきておるということで、この小学校の給食費についても国が補助しようとかという流れはないんですか。

○大岩教育振興課長　そのような流れはございません。

○藪内委員　１７５ページ、２目教育振興費、１４節使用料及び賃借料、システム利用料１，８

４１万円、後の１７９ページに中学校でも９２０万円が出てきますが、パソコン、タブレットともにリース期間は終了しているので、基本的にはシステム利用料などだけが歳出にあらわれるんじゃないかと思われますので、ここでお伺いします。

パソコンルームのパソコンのソフトウエアはアップグレードできるのでしょうか。

○大岩教育振興課長　このたびアップグレードしております。７．１が３２年１月にサポート期間が切れますので、そちらのほうに対応した形でアップグレードしております。

○藪内委員　タブレットについてはウィンドウズ８．１が令和５年１月サポート終了するのに合わせて更新するという答弁がありましたが、それでよろしいのでしょうか。

○大岩教育振興課長　３５年１月にサポート期限が切れます。あと、２７年１月から投入してますけど、バッテリー関係の故障も多くなっております。更新は来年度以降考えていきたいと考えております。

○藪内委員　パソコンルームのパソコンを廃止し、タブレットに一本化するという話もありましたが、どうなっていますでしょう。

○大岩教育振興課長　パソコンルームのディスプレーは使った感じで、そのタブレットをドッキングステーションというんですけど、ドッキングさせて、キーボードはそのまま残っておりますので、キーボードを使いながらタブレットも使えるような感じでいけば、パソコン教室のパソコンはもう要らないのかなという考えではございます。

○尾川委員　関連で、来年度というか、もう今も動きよんじゃと思うんじゃけど、プログラム教育ということを取り上げて、備前市も最先端ぐらいいきよると思うとんじゃけど、１人１台で。プログラム教育の教材についてはどんな考え方しとられるんですかな。何か先生からの要望なんかあるんですか。

○朝倉学校教育課長　先ほどの市の教育研修所の中に情報教育部会がございまして、その中で小学校の先生を中心にプログラミング教育に必要な教材について研究をいただいて、今教育委員会へ上がってきている状況ですので、今後来年度予算に向けて精査して配置していくという感じになります。

○尾川委員　そしたら、今までどおり先頭グループを走っていけるような状況なんですか。

○朝倉学校教育課長　先頭かどうかというところはよくわからないですが、学校でプログラミング教育を行う上でよりよい教材ということで選んでいただいていますので、現段階でいえば授業をする上ではいいものが上がってきているのかなと思います。

○尾川委員　これも教科書選定と一緒で、教材もピンキリというたらあれじゃけど、いろんな種類があって、かなり先生の好みもあるし、できるだけよう、人気機種というてもまたこれも問題があるんでしょうけど、その辺の選定についても慎重に効果があるいいものを、長く使えるものを選定してもらいたいと思うんですが、いかがですか。

○朝倉学校教育課長　今、プログラミング教育に関する教材というのが非常に目玉にはなってい

ますが、今後さまざまな研究が進んできて、よりよいものが出てくる可能性もございますので、そのあたりの状況も勘案しながら教材選定とか、教材の整備というのはしていく必要があるかなとは感じております。

○中西委員　１７７ページ、中学校費の学校管理費、委託料のところで電気保安管理委託料９１万９，９５８円が計上されています。２９年度の決算は７９万９，０００円ですから、１２万円ほどふえているわけです。先ほどの執行部の答弁では小学校の電気保安管理委託料の減額は一括で入札を行っているので、安くなっているんだということでしたけども、ここは逆に高くなっているんですけど、一括することでこれは高くなるんでしょうか。

○大岩教育振興課長　２９年度は学校の数で案分しているんですけども、２９年度が１４万８，０００円掛ける５校掛ける消費税ということで７９万９，２００円ということです。３０年度が５校で単価が１７万３６３円掛ける５掛ける消費税ということで、確かに増額してはおります。案分の関係だと御理解いただきたいと思います。

○中西委員　続きまして、１７９ページ、中学校費の学校管理費の負担金補助及び交付金のところで部活動補助金というのがありますが、これは昨年度の決算から見ますと１８万円ほど減っているわけです。３０年度の当初予算を見ても減っていると。恐らく人数との関係かなというように思うんですが、減りようが大きいんで、お尋ねをしたいと思います。

○朝倉学校教育課長　おっしゃられるとおり、生徒数の減によるものですが、今中学校へ在籍している学年で１学年非常に生徒数が少ない学年がございまして、大きな減になっておりますが、単価的には１人当たり２，０００円ということで変えておりませんので、純粋に生徒数減によるものとお考えください。

○中西委員　生徒数によってこういう部活動費が削減されてくるわけですが、逆に言えば生徒の参加できるような部活動をふやしていく、あるいは単価も上げていくということは考えられないものなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　以前は１人６００円で行っていたものを、２，０００円ということに数年前に上げた経緯がございますので、状況に応じて予算等も考えております。今の段階では２，０００円でいこうというふうには考えております。

○中西委員　教育振興費の備品購入費、図書のところですけども、これは昨年度から見ると購入費が減ってるということなんですけども、私は教育委員会の中でこの図書の評価というのはどのようにされておられるのか。学校をたまに見るわけですけども、古い本が目立つわけです。本当に子供たちが読みたくなるような本をもう少し新しくそろえることができないかなと思うんですが、今の学校の図書の数はどうお考えになっておられるんでしょう。質的な問題を含めてお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長　図書の管理につきましては、先ほど申し上げたように生徒数、クラス数によって配分しております。それで、古い本につきましては決算資料にもありますけど、蔵書の数

も廃棄処分する、あるいは新しいものを買うということで、その新しいものを買うということに対しましては、学校のほうにお任せしとるのが実情でございますので、その辺は学校に全て買うものについてはお任せしております。

○中西委員　つまりこれで十分だと、これだけの金額で毎年少しずつお金が減っているわけですけども、人数が減っているから補助金も少なくなっているというようなことになるんかなと思うんですが、これで十分だというふうにお考えなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　現場のほうから図書費が足りないんだというような話は私のほうも聞いてはないんですけども、図書司書さんがおられるんで、そういったことも校長会などにはお願いしながら希望のほうは聞いてまいりたいと。あと、夏休み中には予算関係で要望を聞いてまいりますんで、そういったところでは対応しているんですが、そういった声は聞いてはおりません。

○中西委員　よくわかりました。

続きまして、教育振興費の負担金補助及び交付金、通学費補助金が昨年度から見ますと３分の１に減っているわけですけども、これも対象者が減っているということなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　通学費補助金なんですけども、遠距離通学で６キロ以上の自転車通学者に２１万６，０３５円と、あと船通学です。それから、スクールバスの人数が昨年は８０３人生徒数がおって、７５人がスクールバスを利用していました。このたびは７１４人の生徒のうちで７２人スクールバス利用ということで、人数的にはそんなにふえてないんですけども、通学費補助の対象になる生徒さんが減ったということで補助金が減っております。

○中西委員　それにしても３分の１に減るというのはどうなんでしょう。今の御返答だけで、金額として出てくるもんなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　船の通学であるとか、定期代であるとか、自転車通６キロ以上であるとか、あと特別支援学校行かれる生徒さんにつきましては全て補助金をお出ししておりますので、単純に生徒さんが減ったということでございます。

○中西委員　その下の負担金補助及び補助金のところで給食費補助金ですけども、これ以上対象を拡大することは考えてないというふうにおっしゃるんですけども、この給食費補助金を出すことによっての教育、あるいは備前市に対する貢献とか含めた効果のほうは、教育委員会としてはどのようにお考えになっておられますでしょうか。

○大岩教育振興課長　貧困家庭への補助金ということになれば、今７人に１人であるとか、６人に１人であるとか、そういった方には準要保護、要保護で給食費は全額補助しておりますので、今している第２子以降半額であるとか、全額補助というのは子育て世代への支援ということで考えておりますので、貧困家庭の支援はもう既にしておりますので、そういったところで今の段階ではこれを拡大するであるとかということは今のところ考えておりません。

○中西委員　私は一般質問では拡大してくれということは言っていますけども、きょうはそのことは言っていないんです。私が思うのは、これをやることによって保護者の負担が大変楽になっ

たという保護者の方の御意見とか、こういうことをやっているから備前市へ移住をしてきたいとか、そういった、あるいは備前市というのはそういう行政をやっているんで、子供たちは大変郷土愛が出てきたとか、そういったような教育的な効果、教育が及ぼす効果というのはどのようにお考えになっておられるんか、お聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長　補助金ですので、それで備前市にいてよかったであるとか、経済的に助かっているとかというような直接の声は私どもには届いておりません。

○中西委員　一度保護者に対するアンケート、あるいは子供さんに対するアンケートなんかもとってみられたらどうでしょうか。せっかくこれだけたくさんのお金を入れて備前市も力を入れているわけですから、そういう行政の効果も図ってみるのも一つではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○大岩教育振興課長　給食費の補助があってよかったですね、その二者択一のようなアンケートはそんなにとれないと思うんですけど、今市民意識調査で小・中学校の充実であるだとかというのはかなり高いところの順位にはありますんで、そういったところには個別記入で書いていただければと思うんですけど、特に給食費の補助がある、なしでのアンケートは考えておりません。

○守井委員　今のところで中学校の分のこの１子、２子、３子の補助金の内訳と人数を教えていただけますか。

○大岩教育振興課長　中学校全生徒７１４人のうち第２子半額補助が２５７人、金額が７１７万９，１７７円、第３子以降全額補助が５２人、２９４万４８３円、合計で３０９人ということで１，０１２万３，６６０円となっております。

○守井委員　反対に、給食費が集まったところがこの予算の中にないんですけど、これは別のところで徴収しているんじゃないんか思うんですけど、それはどんなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　学校給食費のほうは、学校のほうで学校徴収金ということで預かっております。備前市の場合、まだ公会計になっておりませんので、学校のほうで一旦集めていただいて、その後補助金という形でお出ししているのが実情でございます。

○守井委員　徴収のほうはもう完璧に全部できておるんですか。関係ないいやあ関係ないんかわかりませんけど、学校の先生が集める仕事をやられているんか、それとも保護者会がやっているんか、その辺はどんなんかもあわせて報告願えますか。

○大岩教育振興課長　今のところ、未収金があることはございません。全額納めていただいております。

○青山委員　１７９ページ、２０節の扶助費の要保護・準要保護生徒就学援助費なんですが、それぞれ要保護、準要保護というのはどういうふうな条件なのかということと、何人がこの対象になっているのか教えてください。

○大岩教育振興課長　条件は、国の生活保護の基準がありまして、家庭の人数構成であるとかに１．２５倍所得換算したもので、下回れば準要保護ということで、所得で判定しております。

それから、人数的には１０３人おられまして、そのうち要保護が２人でございます。

○掛谷委員　今の関連で、参考資料９ページに小学校、中学校ございます。２９年、３０年度、若干プラス。この傾向というのは５年、例えば平成２７年ぐらいから比べるとどんどんふえていっていると。今後の見通しについてもふえるんかなあと思ったりしますけど、このあたりのところをどのように考えておられるのか。

○大岩教育振興課長　準要保護の方の人数につきましては、年々若干右肩上がりになっているという認識ではございます。所得が出る６月の判定時期で申請していただきまして、先ほど言いましたように所得判定に基づいて認められる方につきましては学用品であるとか、修学旅行費であるとか、給食費であるとか補助しておりますし、今後若干右肩上がりで上がっていくんではないかなという考えではおります。

○掛谷委員　わずかな右肩上がりなんで、心配はしてないんですけど、今よくマスコミなんかが取り上げるのは貧困ということ、格差とか貧困とか、特に貧困家庭がふえているというようなことが言われてますんで、これは国の基準なんで、特段それはどうということではないとは思うんですが、それによる変な話、いじめとか不登校とか、そういうところには関連が。違う話になるんですけども、そういう保護を受けること自体に子供たちは何か学校での影響というのはあるもんですか。そういったことがわかれば教えてほしいんですけども。

○朝倉学校教育課長　今御心配いただいたような案件につきましては、こちらのほうでは把握しておりませんので、ないものと思っております。

○掛谷委員　なければいいんですよ、それはもちろんないほうがいいの決まっているので。ただ、そういうふうなことが私は何件かあるんではなかろうかなと思ったりして心配しているので、そういうところもあわせてしっかりと教育委員会としてそういうことが本当にないのかどうかということも今後は課題として受けとめていただきたいと思いますが、どんなもんでしょうか。

○朝倉学校教育課長　いじめ等は丁寧に把握に努めていく必要はあるかなと思っております。ただ、要保護との兼ね合いというようなあたりはなかなかこちらのほうでも把握しにくいところかと思いますが、いじめ自体起こらないようにということで、委員言われましたように丁寧に把握し、指導していこうと思っております。

○掛谷委員　１８１ページ、一番下の１９節の負担金補助及び交付金で、片上高等学校になるんですが、夜食の補助が９１万７，０００円ほどございます。この平成３０年度は何人が対象となっているのか、どんな夜食を出しているのか、補助なんですけども、生徒の声はどういったものがあるんか、あわせてお聞かせいただきたいと思います。

○大岩教育振興課長　夜食費の内容でございますけども、週２回パンと牛乳ということで１５０円のものを補助しております。それから、週２回弁当ということで５００円相当の弁当を補助しております。ただ、生徒数が３１人ぐらいおられるんですけども、実際に食べられる生徒さんは

そのうちの大体２０人ちょっとぐらいが夜食を食べられております。家から直接通われる子は食べてこられる方もおられますし、そういったところで二十数名が食べているということでございます。

○守井委員　対象者が、全員で３１人とお聞きしたんですけど、授業料のほうも３１人というような報告があったんですけど、各学年にしたら都合によったら七、八人ぐらいの学年があるということになってくるんじゃないんかなあというような感じがするんですけど、学年ごとの人数というのはどうなってますか。

○大岩教育振興課長　３０年度が１年生が６名、２年生が７名、３年生が１１名、４年生が７名となっており、合計３１名でございます。

○守井委員　それで、教育部長、以前片上高等学校の活性化というような形でいろんな議論をやられたと思うんです。そういう中で今聞いたら学年数の４で割ったら７人か８人という感じじゃないですか。いろんなこと考えていってあげないと、なかなか学校自体の運営も難しいなって非常に思うんですよ。その点は何かどんな考え方今やっているのか、その辺報告願えますか。

○田原教育部長　昨年度、片上高校の魅力化ということで活性化委員会を立ち上げて協議してまいりました。その中で、学校のＰＲのパンフレットをつくるなど、また今年度からの新しい片上高校のあり方について議論を深めてまいりました。今年度以降のテーマとしては働きながら学ぶ就労に向けた力の育成と地域との連携、人間関係づくりの育成ということで２本柱でやっております。そういった中で、企業等との連携であるとか、地域とのかかわりを大切にして、今まさに取り組んでいるところでございます。

具体的に申しますと、今後片上高校の中でも先般行われた社会教育で取り組んだだっぴのような事業などに取り組んでいく、学校自体がそういったところに積極的にかかわっていくというような形で子供たちの成長に向けて努力をしておるところでございます。そういった声が内外に響いて活性化、生徒数の増加につながっていけばと思っております。徐々にではありますが、希望者、そういったものも昨年度よりはふえておりましたので、来年度も積極的にＰＲを行ってまいりたいと考えております。

○守井委員　事業計画を進めていく上で、単年度だけでなくて３カ年計画ぐらいな計画を持ってホップ・ステップ・ジャンプみたいな形のものを計画して、それが済むとまた見直してやるというような形のものを考えていかなくてはいけないんじゃないかと思うんですよ。その点も含めて御意見ございましたらお願いしたいと思います。

○田原教育部長　具体的に言えば、活性化計画の中で年次的に取り組んでいくということで計画をしておりますので、それに基づいて関係者等連絡を密にして取り組んでいきたいと思います。

○守井委員　成果の上がるように頑張っていただきたいというふうに思います。

○尾川委員　今、夜食補助金に関連して、週２回パンと牛乳、それから週２回弁当、これがずっと継続されとると思うんですけど、こういう表現して適切じゃないですけど、弁当のときは授業

に出る人が多いとか、出席が多いとか、そういうふうな何かこの辺の工夫は考えてないんですか。例えばもう今度は弁当ばっかりにしますよとか、従来どおり２回ずつそのまま継続するというような考え方なんですか。

○大岩教育振興課長　弁当とパンで相関関係はわからないですが、大体二十数名の方がパンも弁当も食べておられます。最初は５日の弁当も考えたんですけども、学校さんのほうも学校の管理上、弁当が５日よりもパンと牛乳のほうがいいということでお聞きしまして、今はパン３回、弁当２回となっております。

○尾川委員　学校には聞いとるというんじゃけど、生徒から聞いとんかな、そりゃ。その辺はどんなん。一遍調べて生徒の意見を聞いて、弁当にするという意味じゃないんですよ。じゃけど、せっかくじゃったらもっと充実して、出席してもらうようにと、途中で退学せんように何とかしてもらいてえと思うんですけど、どんなんですかな。

○大岩教育振興課長　生徒さんの意見のほうもお聞きします。

○掛谷委員　関連で、たしか備前市内の人は少ない。３１名の内訳を教えていただきたいということと、岡山市を中心にした中枢連携都市構想というのがございます。よく言われるのは備前市がつくった市立の片上高校ですから、費用はほとんどもう備前市が出していると。そういう意味で、これは岡山市のほうから来られるとか、瀬戸内とか赤磐、和気含めて、それは教えてもうたらわかるんで、そういうなのに要望していっても、それは真庭とか津山というたら関係ねえというて言われるんじゃけど、そういうふうなところも唯一岡山市以外であるわけなんで、そういうところにも要望されてもいいんじゃなかろうかという話が出てきてるんで、その辺のところの２点をお伺いします。どこから来ているのかというようなところ含めて。

○大岩教育振興課長　ことしの資料で申しわけないんですけど、ことし１年生が１１名入られまして、３５名と今なっております。内訳でございますけども、備前が３名、日生が３名、吉永１名、これで備前市出身が６名になります。あとは多いところでいえば上南３名、西大寺が７名、長船が２名、邑久が１名ということで、割に赤穂線沿いの方が多いというような印象でございます。和気が２名になっております。

備前市立でございますので、最初は勤労青年の働きながら学ぶということで市立片上高校がありましたんですけども、今は受け皿的なところもございますし、そういったところの生徒数の減少などを踏まえまして、昨年度、片上高校の魅力化検討委員会を立ち上げまして、何とか生徒数の増加に取り組んでいるところでございます。

教育内容のほうも、このたび４月からカリキュラムの見直しをしておりますし、そういった関係もございまして、入学生がことしは１１名とふえております。これは合格者の数でありますので、実際には受験の申込者のほうはまだ多かったということでありますので、内外に対して片上高校のよさをこれからもアピールしていきたいとは考えております。

○掛谷委員　それはありがたいんですけど、私の言うのは運営費の費用の部分で岡山であると

か、瀬戸内からも来ているわけなんで、そういった中枢連携都市構想の中で今言う県北は関係ないといえども、ほかの都市からも受け入れをしているんだから、少しはそういうふうなお金を取ってくることはできないんか、お話をしたことがあるんかというようなことを私は聞きよんですけど。

○大岩教育振興課長　片上高校に通われてる他市町のから負担金ということはお話ししたことはございません。あと、高等学校の先生につきましては夜間の定時制ということで、県費の先生が来られております。非常勤とかは市費で払っていますけども、教師の人件費は県費の先生ということで、備前市のほうは後のフォローをしているだけの話なんですけど、他市町村にはお金を出してくださいというようなお願いはしておりません。

○掛谷委員　これは意見として。他市町村に出してくれというんじゃなくて、岡山市を中心に中枢連携都市構想の中にこの片上高校の位置づけをして、それに運営補助金とか、そういう学校の先生の派遣はわかっていますけど、要望なり、そういうことを上げていかないとそういうことは一切ありませんから、どうでしょうかと。それが違う話やと、それは関係ない話やと言われたらもうそうですけど、話を出してみることもいいんではないかなあと思ったりするんですけども、どうでしょうか。頑張ってそういうふうなことを言っていただくようなことできますか。

○田原教育部長　岡山連携中枢都市構想の関係でというお話でありますけども、岡山市にも夜間定時制といったものもあると思います。そういったところでどうなのかと。その点については研究をさせていただきたいと思います。

○掛谷委員　ぜひ研究してください。というんが、多いですから、岡山市なんかがもうほとんどなんで、これ片上高校は他市から来てる生徒が多いんだから、それだからそうやって言よるわけで、意見ですけど、これから頑張ってみてください。

終わります。

○橋本委員長　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

１８２ページから１９９ページまでの教育費、社会教育費、保健体育費ほかでございます。

この範囲で質疑を希望される方。

○掛谷委員　１８４、１８５ページ、２目の公民館費の中の１節の、１節と７節に関係します。

まず、１節の報酬、地区公民館長の報酬が４２５万８，８００円、それから関連の７節の賃金で地区公民館の主事の賃金、これが１，４７４万円、４倍近く差があるわけです。公民館長というのは基本的には午前、主事というのは１日いるというふうな流れですけども、これに対して地区公民館長というのが午前中で帰るときもあるけど、結構ボランティアでやってるようなところもあるんですよ。ですから、地区公民館長の報酬というのは１日制にするような声はないのか、もうボランティアというの相当あると思うんですよ。主事は１日おるんで、これは７地区と思っ

ております。その辺の地区公民館長の報酬について、その半日制度というものがそれで本当によいのかどうか、公民館長の声、それから住民の声、そういったものをあわせて主事と館長のところをどのように考えているのか。平成３０年度でどういうような声があるのか、教えていただきたいと思います。

○竹林社会教育課長　先ほど言われました報酬の地区公民館長報酬につきましては、各地区の公民館の館長さんのうち３名分がここへ報酬として上がっています。

先ほど言われた賃金のほうへ、賃金でお支払いしている館長さん５人分、こちらがこの内訳で９６０万円程度上がっております。そのほかにつきましては、通常の臨時さんの賃金ということになっております。

先ほど言われた館長さんの勤務なんですけども、各公民館でまちまちなところもございます。今までの流れ、経緯の中でそういった勤務形態になっているかと思うんですけども、いろいろ公務で出たりというところもありますんで、それぞれの実情に応じて変更できるところは変更も必要かと思うんですけど、来年からこちらの館長さんにつきましては会計年度任用職員ということで移行になる予定ですので、その辺である程度統一していけたらなというふうには考えております。

○掛谷委員　公民館長になられる方の声をしっかり聞きながら、それは午前中で終わるんだったら昼からは１時間当たりの賃金を支払うとか、そういうふうなことも考えてあげて、実質的にボランティアというのはおかしいと思うんで、何でもかんでもそれは上げていきゃあええというもんじゃないんですが、きちんとした報酬に上げるべきだという意見を持っております。自分から上げてくれとは言いにくいですよ。だから、そういう意味で実情をしっかりとくみ上げてやっていただけばいいんかなあと思っていますので、よく声を聞いてあげていただきたいなと思っております。その辺のところ、部長、今後どうされるのか、教えていただきたい。

○田原教育部長　地区地区で公民館の成り立ち、そういったものが違ってきていると思います。そういったところを統一的な見解でどういうふうにできるのかといったことも含めて、皆さんの意見も聞きながら進めていきたいと思います。

○尾川委員　関連で、今説明があった地区公民館長報酬は３名分ですわね。それから、臨時雇い賃金５人分という、これでええんですか、１，６００万円。

せえで、単価が大分違うような気がするんですけど、、その辺矛盾はねえんかな。どういうふうな処遇というか、採用方針になっとんか、臨時雇いと公民館長報酬との区分けというか、区分はどうなっとんですか。

○竹林社会教育課長　勤務時間等、それから館長さんの年齢的なこともございまして、そちらの関係でこういった報酬と賃金という別扱いということにはなっております。

単価的には館長さんの報酬につきましては１１万８，０００円程度となっております。また、臨時の賃金につきましては時間によって若干変動があるかと思うんですけども、ほぼ同額程度に

なっとんじゃないかなと考えております。

○尾川委員　掛谷さんとはまた違う意見なんじゃけど、私ら館長のほうが半日とか、主事が１日おるとか、それは矛盾じゃねえといやあ矛盾じゃないんかもしれんけど、どうも私らの感覚からいうたら責任者の館長が半日で主事が１日おるという、そういうふうな勤務体制というのはどうも疑問に思うんです。その辺は長いことやってきとんですけど、執行部とすりゃあ矛盾を感じてないんですかね。

○竹林社会教育課長　公民館さんともいろいろな会議の場でもそういったお話はありますけども、館長さんにつきましてはいろんな出勤をせざるを得ない時間帯等については今振りかえ等で対応していただいているというところもございますけども、来年は先ほども申しましたようにある程度統一した扱いにできたらなというふうには考えております。主事さんについては１日ほぼいていただくというような格好はこれからも変更はないかと考えています。

○尾川委員　採用条件というか、年齢とか経験とかいろいろあると思うんですけど、その辺の矛盾みたいな感じがするんですけど、それも含めてぜひ善処してほしいと思うんですけど。

○橋本委員長　要望ということで。

ほかにございますか。

○守井委員　１８３ページの報償費、社会教育費、社会教育総務費の報償費の成人式記念品なんですけども、年によって金額が変わっていますが、対象人員はほぼ変わらないと思うんです。年によって変えないほうがいいんじゃないか思うんですけど、何か事情によって昨年が&るのか。２９年度が１５万５，０００円ほどで、３０年度は２７万９，０００円ですが、どういった理由だったんですか。

○竹林社会教育課長　人数的には恐らく若干減少してきている状況かとは思うんですけども、そういった中で記念品として何がいいかというような中で、昨年は単価９００円のものを用意したということです。恐らく前年より単価が上がっているんじゃないかなと考えております。

○守井委員　ほな、実行委員の希望によっても変えるということで、単価的なものは別に気にせずにというようなことでやられたということですか。

○竹林社会教育課長　この記念品につきましては、昨年決定して、変更したかと思うんですけども、これを３年間程度続ける予定には今のところしております。

○中西委員　１８５ページ、社会教育費、社会教育総務費、委託料で備前まなび塾委託料というのがあります。これは昨年度の決算では４１０万５，０００円と。今回、少し減ってきてますんで、参加者が少なくなってきているのかなというふうに思うんですが、理由はいかがなものでしょうか。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、市内の１０地区の地区公民館中心でまなび塾をやっていただいておりますけども、人数的に減少傾向というのは聞いております。３０年度の生徒数でいいますと１７８名となっております。

○中西委員　人数が減っている理由は何なんでしょうか。そして、同時にここはせっかくやって、それなりに一つのおもしろい政策だとは思うんですが、どうやったらふえるんか、そのやり方自身に問題があるんか、どうやったらふやしていくことができるんか、そういう手だては打っておられるんかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長　こちらの開始に当たっては、市内の小・中学校へも年度初めにいろいろと周知も行うようにはしてますんで、引き続きＰＲに努めていけたらと思っております。

○中西委員　生徒数が減っているといえば減っているんかもわかりませんけども、ここはそういう生徒数の減ではなくて、どうしてこう参加者が少なくなっていっているんか、それはどうなんでしょうか。

○竹林社会教育課長　実施日が基本的には土曜日の午前中なんですけども、子供さんそれぞれ習い事、スポーツ少年団とか、そういった活動へも参加されとるというところで、その辺が減少に影響しているのかなというふうには思っております。

○中西委員　最後にお尋ねしますが、この備前まなび塾というのは余り魅力がないんでしょうか。そこのあたりは行っている先生方あるいは生徒さんを含めて何か調査なり御意見を伺ったことがあるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　具体的には私は聞いておりませんけども、現場の支援者の方等の意見もこれから聞いて、そういった施策に反映できればと考えております。

○中西委員　続きまして、１８７ページの１３節委託料のところで、施設清掃委託料、これが昨年度に比べますと大体２０万円ふえていると。これはこの公民館の面積がふえたためなのかどうか、この理由についてお尋ねをしたいと思います。

○竹林社会教育課長　基本的には備前、日生、吉永の３館の清掃業務になります。範囲としてはふえたということは聞いてはないんですけども、業務内容あたりが要因じゃないかなとは思われます。

○中西委員　面積はほぼ変わらないところで２０万円ふえるというのはそれなりの理由があるんだと思うんです。

○橋本委員長　会議中途ですけど、暫時休憩いたします。

午後２時１０分　休憩

午後２時１８分　再開

○橋本委員長　休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○竹林社会教育課長　備前の市民センター分が増ということなんですけども、業務内容としては変更はないということなんですけども、業者さんの入札で行っておりますけども、その結果増となったということで、恐らく業者さんの賃金分に相当する部分で増があったんじゃないかなということで、入札結果ということで増額ということでございます。

○中西委員　入札は公正に行われたんでしょうけども、前年度と同額で来るのが一般的なんじゃ

ないかなと思うんですけども。

○竹林社会教育課長　こちら清掃委託料ですので、清掃の作業員さんの賃金というところが大きなものじゃないかなと思われます。そのあたりで最低賃金とか、そのあたりの変動の関係でこういう結果になっているというふうに考えております。

○藪内委員　同じく１８７ページの１３節委託料、測量調査設計等委託料４４３万７，７２０円、これはどこの測量調査をされたんでしょうか。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては３件ございます。

まず、１件目が市民センターの雨漏り調査の委託料、８８万５，６００円、それから三石公民館の建てかえの検討業務委託、９６万１２０円、あと一件が日生の南公民館、頭島南にございますが耐震診断の業務委託、２５９万２，０００円の３件となっております。

○藪内委員　三石公民館の一体化についてですが、以前お話しありましたけど、その後はどのような様子でしょうか。

○竹林社会教育課長　昨年の業務委託を受けまして、本年度、実施設計を実施中です。来年度の建設に向けて今、実施設計に取り組んでおります。

○掛谷委員　こ同じところで下から３段目、施設設備総合管理委託料８５９万６，８００円、これはどこに委託をされて、どういうふうな管理をされているのか、お知らせください。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、委託先が株式会社日建さんというところになります。こちらのほうで、備前、日生、吉永３館を合わせてこの金額となっております。

○掛谷委員　これは１年ごとの入札ですよね。そこをちょっともう少し教えてください。

○竹林社会教育課長　こちらにつきましては、入札で業者を決定しております。

○掛谷委員　１年単位ですね。

○竹林社会教育課長　１年単位でございます。

○中西委員　１９１ページ、文化財保護費の中で公有財産購入費、これは何を買われたんでしょうか。残は入札なりの残金になるんでしょうか。

○横山文化振興課長　これは歳入のところでも触れましたけども、伊部南大窯指定地内の３０年の追加指定に係るものを４筆、面積３，０９２平米の土地について不動産鑑定を行った後、公有地化を行い、一連の窯跡群としての保護を図ったものでございます。

○掛谷委員　１８９ページ、図書館費、１８節備品購入費の図書について、９７５万４，５７７円、これは別冊の参考資料１７ページに出ておりまして、全館のところのＣＤも含めてこういうふうにあります。お聞きしたいのは、この内訳が備前、日生、吉永、ＢＭとありますが、これは標準、何冊を購入するかというのは、逆に言いましたら古いのを廃却して新しいものを入れるという考え方で、標準冊数というのがこの購入で間に合っているのかどうかというのをまずお聞きしたいと思います。

○竹林社会教育課長　こちらの図書の購入費につきましては、そちらの一覧にありますように購

入が６，３７５冊ということで、これに対しまして一部その年度に廃棄といいますか、除却等もございまして、増分としては若干これから減ってきた格好にはなっております。蔵書数でいきますと、大体３０年度でこれだけ購入した結果、５，２００冊程度蔵書数としてはふえているということになっております。

○掛谷委員　備前、日生、吉永、ＢＭを入れて６，３７５冊を購入されてるんですね。問題は、例えば瀬戸内市とか赤磐市とか、特に瀬戸内市なんかと比べて同じような人口構成、浅口市であるとか、そういうところと比べて遜色はないんかどうかということをお尋ねしたいところがあるんですけど、その辺のところ調べておられますでしょうか。

備前はそういう意味では十分他市町とも、和気なんかも、和気町を調べてみましたら１２万２，４９５冊も実際あるんですよ。ほいで、だから全体のことをというか、購入を含めて全体の蔵書、蔵書も左側の１６ページにもありますけども、全体の蔵書なんかも含めて備前市というのは十分なのかどうかというのは疑問に思うんですよ。和気町でも１２万２，５００冊ぐらい蔵書があるんですよ。その辺をどういうふうに、備前市、ほかの自治体と比べて遜色ないのかどうか。調べたことがございますか。

○竹林社会教育課長　近隣の自治体さんですけども、新しく施設がなった瀬戸内市さんにつきましては蔵書数は恐らく２０万冊程度あるかと思います。それから、赤磐市さんについてもかなり施設も広いということで、２０万を超える蔵書数ということはこちらでも一応把握はしております。そうした中で、うちの施設につきまして、スペース的な限界ということもございますけど、今は十二、三万冊程度で推移しているというところでございます。

○掛谷委員　わかりました。新図書館の建設というのが今課題になって、本年ぐらいにはある程度の形になって見えてくるんかと思いますが、新しい図書館建設が決まるや決まらんや、どれだけの大きさかわからん中ではなかなか難しいんですが、新しい図書館が仮にできるんだったら、古いのをもう全部廃却するなりなんなりして、新しい図書館にはそれだけのかなりの新冊というか、新図書というのが入ってくる可能性は大と思うんですよね。そういうところを来年度図書館建設の中にきちんと図書というところの予算というのも必要になってくるんじゃないかと。今聞いたら、備前市は劣っていると、少ないと思うんですよ。そんなところでこの平成３０年度から次への段階、来年度にどう生かしていくのか、その辺を図書館建設というハードの面もそうですけど、図書というソフト面はどう考えていこうとしてるのか、そこの辺のところを見通しをお聞かせいただきたいと思います。

○竹林社会教育課長　蔵書数などのソフト面につきましても、今検討しております中、備前市の規模、人口規模等も踏まえてどれぐらいが適正な規模かというあたりもその中で検討はしていく予定としております。

○掛谷委員　瀬戸内市なんかは、新しい図書館建設をしたときに子ども読書活動推進計画という子供を対象にした推進計画であるとか、スタートをするときにいろんなアイデアを出してやって

います。ですから、図書館建設がスタートするときにはいろんな形でしっかりと考えていただいて、スタートできることが望ましいと思っておりますので、もうすぐどうなるんかが決まりそうでありますので、その辺のところをよろしくお願いしたいと思います。

これはもう要望で終わります。

○尾川委員　図書館関係で、部長にお聞きしたいんですけど、まず建設のこともアンケートをとったりして進んどるようなんですけど、まず現状について図書館館長が任命、名前はあるけれども、実際活動しとるように部長は捉えられとんですかね。まず、それをお聞きしたいんですけど。

○田原教育部長　今現在、館長というのが職員が兼務のような形で実際しております。それについて、単独の館長を置くべきではというような御意見かと思いますが、現在のところ今の規模において実情兼務で行っているというような形でございます。そういったことも図書館整備の充実に向けてどういった体制が最もふさわしいのか、求められるのか、そういったことも今後検討してまいりたいと考えております。

○尾川委員　隣の町の図書館の絡みで、結構充実した内容にしたらいろんな予算がかかるというのは私は当たり前じゃあというて言うたんですよ。だから、今日生にある、吉永にもある、それで備前の市民センターもあって、それをコントロールする人がおるんかおらんかというのを疑問に思うんですよ。専従がええというんじゃねえんですけど、それだけの業務ができる体制をつくらんと、現状でさえ今が全くうまくいかんようなものを、建物つくったからというてきちっとした図書館運営ができるかというたら、また別の話で、その辺も考えた形で組織体制を考えたり、あるいは質問したけど、司書も本当に今司書おるんですかというて返事もなかったんじゃけど、こっちもわかっとったけども。現状、本当に図書館の司書がおらんようなことを、保育士が足らんというぐらいじゃから司書も当然採用したって司書の資格持った者は応募してもらえんというようなことがあるんなら養成せえというふうな話もしたわけでして、だからそういう体制を、ある面今予算も例えば瀬戸内の図書費ははっきり言うて２，０００万円ぐらいです。この間も言うたように雑誌が何十冊と何百種類というふうな違いがあるのを徐々に近づけていくか、あるいは図書館とはどういうもんかというものを一つのもんをつくって組織体制はこうじゃと、本はこうだというふうなものを並行してやらんと、アンケート聞いてどうじゃこうじゃというたって、もうここまで来たら市としてちゃんとした図書館像というものを出してみんなに示すべきじゃと思うんですが。

○田原教育部長　箱ができても中身がそろってなかったら何もならないという御意見ごもっともだと思います。そういった中で、職員の研修体制とか、司書の研修、そういったところで充実を図りながら、今後そういった理想の備前市に合った図書館像について研究、検討してまいりたいと考えています。

○尾川委員　要するに、市長にはもう金はかかると覚悟してもろて。予算今からつけて、司書も

こういう司書になってほしいとか、養成していくとかという考えでもって図書館の話しするんならそういうふうにしていかんと、建物はできた、できたというか、今でもどこへあるんか、どこへ行っとんかわからんようになっとるような感じが私はしとって、だからその辺を並行して内部的に用意していかにゃいけんことはちゃんとやってほしいと思うんですけど、そんなことが問題かなあというふうに。

ただ、外面的に見て建物があって、司書もあれだけおって費用がかかるというのはわかっとって、それでも今の備前市の図書館の状況で書架がねえ言うけえ、廊下でも置きゃあええと思うよ、私は。持って帰るやつがおるかもしれん。そんなもん相手にせんでもええと思うんじゃけど、置いていきゃあええと思うんです。じゃから、そういう考え方できちっとしたもう備前市の図書館像というのをはっきり明確にして、人は何人要る、館長は各館をコントロールできるだけの人物がおって、実際運用していくということをせんと、何でもかんでも兼務で名前だけ与えといて、そら出るところ出たらふうが悪い、恥かきよんじゃねえかと思うん、館長じゃというて出たってね。そんなことのねえように上からちゃんと体制をつくって費用を認めていくようにせんと前へ行かんと思いますけえなあ。意見を発言してもらいたいんですけど。

○田原教育部長　おっしゃるとおり、管理体制、そういったところを含めて充実に努めていきたいと考えてます。

○石原委員　同じく図書館費のところなんですけれども、毎年いただく事業報告を拝見しまして、ここ数年見比べてみますと限られた厳しいスペースというんですか、限られた中でもろもろ講座であったり、イベントであったりを頑張られてか、ここ３年ほど少しずつ少しずつ貸出冊数も着実にふえとんかなあと。その中で、本当にちっちゃな動きなんですけれども、わかればで結構なんですけれども、吉永の分館、こちら限られた１万５，０００冊ほどの蔵書の中で、ここ４年ほどですか、平成２７年度から３０年度にかけて貸出冊数が１．５倍ほどに、この伸びはかなり目にとまったんですけれども、何かここにも図書館運営のヒントがあるのかなあと思うて拝見したんですが、執行部としてここではもう特にですけど、吉永頑張っとられるんかなあ。何かこの点について評価であったり、今後に向けてのヒントを捉えられたりというんがあればお教えいただければと思うんですけれども。

○竹林社会教育課長　吉永の図書館、分館につきましては、数年前、何年前だったか、場所を変更しまして、以前わかりづらい場所にあったかと思うんですけども、今は地域公民館の一番支所側といいますか、前年に移動をしまして、かなり場所的に皆さん利用しやすい場所になったというところで利用者数等もふえているという状況でございます。

○石原委員　大変難しい事業だと思います。もう何が正解か、箱にしても、中身にしても、どの規模が適正かという明確な答えもないでしょうし、そのあたりもしっかり、今場所というようなお話もありましたんで、どこにあるんかわからんというような市民の方も大勢おられるかと思うんで。

それから、せっかく頑張っておられるんで、これ備前市のどの施設にも共通することかと思うんですが、市民に向けてＰＲを。本当、ささやかだとは思うんですけど、こんだけ利用もふやす努力もしています、頑張ってますであったりというＰＲがありとあらゆる関係の部署に不足しとんじゃないかなあと。大いにこの図書館、公民館についても同様だと思いますんで、よろしくお願いしたいと思います。

それから、１９０ページの文化施設費に関連してなんですが、ここでも施策評価シートの中で施策の有効性、評価のところなんですけれども、今後に向けて文化施設が点在しており、施設の老朽化も進んでおって、機能統合を行うことなどにより集約を図っていく必要がありますという方向性が示されておるんですけれども、今後の文化施設のあり方について、どのように進めていくのか。ほかの公共施設再配置計画等でもうひっくるめて考えていくのか、どういう方向性になるんか、今現時点でのところでお聞かせいただければと思うんですが。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、厚生文教委員会の中でも御質問があったりしておりますけども、公共施設のマネジメント計画の中で今検討中でございます。備前焼ミュージアム等につきましては、３年後には国道２号の緊急輸送道路に面している施設ということで、どういった方向性か、ある程度示していかなければいけないなというようなことで、２年をめどぐらいに方向性が示せたらというふうに考えております。

○石原委員　文化施設についても備前焼ミュージアムでは先ほどおっしゃった現在企画展等も開催されて頑張っておられたりなんですけど、今は市が所有して運営されとるわけですから、文化施設についてももっともっとＰＲ、もう何かずるずると惰性で、あるから人を置いたり、最低限の運営を続けておるようなイメージで見受けられるんで、せっかく運営をしとんなら、もっともっとある限りは強い気持ちを持ってもう取り組んでいく、ミュージアムに限らず。その点はもう強く要望したいと思います。

それから、１９２ページの青少年対策費で、こちらも施策評価シートからなんですが、青少年育成センターへの相談件数が２８年度が９４件、２９年度が１４２件、それから３０年度が１８５件ということで、ぱっと見市内の青少年落ちついとんかなというイメージあるんですけど、件数だけはかなり顕著な形で伸びてきておるということで、このあたりはどのような状況なのか、捉えとるところでそれだけ活発にというか、青少年健全育成センターですか、活動されとんかというところで捉えをお聞かせいただければと思うんですが。

○竹林社会教育課長　青少年育成センターにつきましては、４名の指導員の方に週ローテーションを組んでいただいて相談業務等に当たっていただいております。そういう中で、特に大きな問題ということは最近耳にはしておりませんけども、細々としたそういった相談件数というのはこれだけの件数があるというところは注意深く見守って、巡回活動等もやっていけたらというふうに考えております。

○石原委員　１９７ページ、７項保健体育費の１目保健体育総務費、１９節負担金補助及び交付

金の中で、市の体育協会への補助金１３０万円なんですけれども、こちらも僕も以前一般質問の場でしたか、もう本当ここ何年も、５年どころじゃない形でこの一定の金額が続いておるというところ、それから同規模他自治体、近隣の自治体等とも比較しても、金額でいうとかなり低い、抑えられた金額でずうっとここ数年推移しとんですけれども、体育協会との市のかかわり方であったり、各近隣同規模自治体の体育協会さんの運営のあり方であったりというところを何か研究していきますみたいな御答弁をいただいたことがあるんですけれども、何かその後体育協会とのかかわり方、市としての体育へのかかわり方であったりというところで御検討が進んどんであればお聞かせいただければと思うんですけれども。

○竹林社会教育課長　体育協会補助金につきまして、事務局はこちらの社会教育課のほうで担っているというところで、近隣でそういった団体さんの中で事務局のほうも担っていただいておるようなところもあるのかなと思うんですが、日生、吉永の支部も含めてそういった団体さんが担うことが可能かどうかというあたりも今後お話もしていきながら、有効な方法があれば取り組んでいきたいというふうには考えております。

○石原委員　これも果たして何が正解かわからんわけなんですけれども、何か事あるごとに市当局がイベントなんかにもしっかり最前線でかかわっておられる姿を見ておるんですけれども、市体育協会のあり方というか、市としてどういう形でスポーツを、体育を支援していくべきなのかということを今後も引き続きしっかり御検討いただいてということを、これもまた要望させていただきます。よろしくお願いします。

○藪内委員　１９７ページ、１３節委託料、一番下の体育施設指定管理料約１億２，０００万円、２６年から２９年は確認したんですが、３０年度の内訳をお伺いしたいのですが。

○竹林社会教育課長　久々井の総合運動公園が７，２０４万７，０００円、伊部の総合運動公園が４９万８，０００円、三石の運動公園が１４９万５，０００円、吉永が１，０６６万３，０００円、日生の運動公園が１，４９４万７，０００円、日生のプールが１，５７７万３，０００円、あとは一般的な管理費としまして残りが５５０万円程度、これが残りの一般的な管理費ということで伺っております。

○青山委員　関連なんですが、以前に市のスポーツの振興というふうなことで市長にお伺いしたら、答弁の中で施設管理公社のほうでのいろんな企画も今後期待するというようなことの答弁があったんですが、特に久々井の公園でそういうふうな企画とかというふうなことでやられるようなことというのはしっかりできてるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　久々井の運動公園でいきますと、通常の温水プールの水泳教室ということは計画的に行われておるようなんですけど、公社さんも自主事業というところまではなかなか踏み込んで取り組めてないというふうには聞いております。

○青山委員　これは市のほうが出してるわけなんですけど、指定管理のほうで独自に収益を上げるとかというふうなことというのは可能なんでしょうか。

○竹林社会教育課長　それは公社さんでそういった事業に取り組んでいただければ収益の面でも貢献できると思いますので、ぜひ進めてはいただきたいというふうには考えております。

○青山委員　多額の市からのお金、委託料だけで何とか施設の管理をするだけというんでなくて、もう少し幅広くイベント等を行って収益を上げるようなことへ向けても指導なりしていただけたらと思うんですけど、その辺はどうですか。

○竹林社会教育課長　公社さんとの話の中でもそういったお話も今後積極的に出していきたいと思います。

○掛谷委員　関連なんですけど、参考資料の１３ページに施設利用状況というのが一覧で載っとります。学校体育は置いといて、三石総合運動公園の多目的広場というのが合計で６，６８６と、日生は多目的９，４１５と３，０００名ぐらいの差があるんですが、気になるところは、日生は多目的広場が多いというのはどういうふうなものに使われているのかというのがわかれば教えてほしいんですが。

○竹林社会教育課長　日生の多目的広場につきましては、少年野球、サッカー等で活用されてると思われます。一方、備前につきましてはこの多目的広場といいますのが野球場になります。野球に特化した利用かなというふうに思われます。

○掛谷委員　日生は多目的広場の日生はグラウンドゴルフ使ってはないということですか。

○橋本委員長　それは違うで、これは。

○掛谷委員　それで、もう一つだけお聞きしたいのは、温水プールじゃなくて温浴施設でどうのこうのじゃないんですが、備前市総合運動公園と日生の浜山の運動公園というのは駐車場というのは保有台数どれぐらい台数が置けるもんかというのがわかりますですか。直接関係はないんですけど、駐車場の台数は気になるところなんで、わかれば教えていただきたいんですけど。

○竹林社会教育課長　久々井のほうが５５２台、日生の運動公園につきましては６００台程度ということになっております。

○掛谷委員　これは正式な線を引いたというか、駐車場という指定をされたところがこういう数字だと思うんですけど、実質的に置ける台数というのは、これはまたすぐわからんと思いますけど、スポーツフェスティバルで見たらわかりますけど、相当広い道路のところにずうっと置いたりして、それは日生も一緒なんですけども、運動公園の中のそういう本当に置ける台数というのは実質違うと思うんです。すぐは出ないと思うんですが、そこらあたりも参考にまた今後教えていただければと思います。

例えば浜山運動公園のこちらは県道があり、県の土地なんかがございます。そういうところは実質的に浜山運動公園の中ではないと思う。ところが、久々井の運動公園というのは道路に相当おけるんですよ。だから、そういう意味で浜山よりも本来なら実質的には久々井のほうがたくさん置けるんではないかと想像するんですよ。そのあたり、調査をされておりますか。

○橋本委員長　公園内の道路と。

○竹林社会教育課長　先ほど、日生の駐車場６００台と言いましたけど、こちらにつきましてはスポーツ広場等を駐車場に利用した場合が含まれておるようでして、実質的な駐車場としてあるのは１９０台程度ということで、済いません。

○掛谷委員　だから、すぐ答えはいいですけども、変な話駐車違反でも何でもないと思うんですよ、運動公園内は。だから、実質的に置ける台数というのは幾らなんかというのを今後調査して、またいいときに教えてください。それは要望しておきます。

○守井委員　１９６ページの学校給食の関係なんですけど、昨年に比べて大分全体の予算も少なくて済んでるというような形になっているんですが、２億２，０００万円が補正で減っとるから１億７，０００万円か。どちらにしても若干減っとるというようなことなんですけれども、日々の食事ですから修繕もやらなくちゃいけないだろうし、人も入れていかなくちゃいけないし、食べ物ですからよく気をつけなければならないというようなことなんですけど、３０年度の実態としてそれぞれの５調理場の対象人員、運営人員と、それから単価がどのくらいで上がったか、わかれば教えていただきたい。

各調理場によって１食当たりの単価が変わってきているんじゃないんか思うんですけど。

○大岩教育振興課長　１食当たりの単価は、３０年度の決算ベースで投資的経費を除いたもので算出しております。西鶴山共同調理場が２８６円、伊里共同調理場が３０８円、日生共同調理場が３２５円、吉永共同調理場が３５２円、片上小学校が６６１円となっております。

○守井委員　それぞれ対象人員は何人で運営しておりますでしょうか。

○大岩教育振興課長　生徒数ですが、西鶴山共同調理場が４２３人、伊里共同調理場が７３３人、日生共同調理場が４５５人、吉永共同調理場が３０１人、片上小学校が１２９人となっております。

○守井委員　各調理場によって単価が多少違ってくると、そのあたりの違いというのはどういうところによって出てくるんでしょうか。調理によってその共同調理場、調理場の運営の仕方によっても変わってくるんかなあというように思うんですけれども、いかがなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　大きな違いは人件費になってまいります。片上小学校につきましては、市費の栄養士、あとの共同調理場は県費の栄養士ということで、それが片上調理場が倍ぐらい単価がかかる理由になっております。

○守井委員　栄養士の単価を除けばそう変わらないというような解釈でよろしいんですか。

○大岩教育振興課長　大きなものは人件費で、栄養士でございます。

○中西委員　１９３ページ、文化施設費の委託料、この中で害虫駆除委託料が前年度は１６万５，０００円、今回は６万３，７２０円となってます。この理由についてお尋ねをさせていただきたい。

○横山文化振興課長　こちらにつきましては、加子浦の歴史文化館の６万３，７２０円のみになっておりまして、歴史民俗資料館については２９年度まで消毒をしておりましたけども、３０年

度は予算計上しておりませんでした。

○中西委員　備前の歴史民俗資料館ですよね。ここはことし夏にもお伺いをしたんですけども、クーラーもきかない部屋があって大変暑い思いをしましたけども、害虫駆除をしなくてもいいんでしょうか。古い建物だけに必要なんじゃないでしょうか。

○横山文化振興課長　歴史民俗資料館につきましては最小限の経費で運営するようにというような指示もありまして、今回こういうふうになっております。

○中西委員　資料館におさめられているものの管理ということでは、そういう害虫の駆除というのは必要ではないんかというふうに素人目には思うんですが、もうこの片上歴史民俗資料館を畳む、閉鎖をするということが前提でそういうような最低限の駆除ということになってるんでしょうか。

○横山文化振興課長　急に運営をやめるとかということではなくて、必要最小限でやれということなので、そういうふうになっております。

○中西委員　よくわからないんですけども、私は続いて次に移りたいと思います。

１９５ページの青少年対策費、負担金補助及び交付金のところで、ＦＯＳ少年団補助金というのがあります。この２７万５，０００円というのは余り変化のない金額であります。人員というのはこの間どう推移しているんでしょうか。

○竹林社会教育課長　過去のはっきりした人数の推移というのは把握しておりませんけど、恐らく減少傾向ではあるかとは思うんですけども、３０年度の登録者数でいいますと、日生が団員の方が１４名、指導者の方が２０人、吉永地区が団員の方が２３名、指導者の方が１３名ということで把握しております。

○中西委員　ほかのところは生徒の数、子供の数、組織人員が少なくなっていくことについて補助金が減ってきますけども、ここはそういうことはないものなんですか。

○竹林社会教育課長　手元にある資料でいいますと、合併時点では３８万円程度が補助金としては実績としてあったということですので、そこからいいますと１０万円程度減額にはなってるということでございます。

○中西委員　これは計算式はどうなるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　これは特に計算式ということではありませんで、今現在でいいますと日生、吉永地区、２地区に対して１地区１３万７，５００円ずつが交付されているという状況でございます。

○中西委員　さして基準がないということがよくわかりました。

１９３ページの文化施設費の委託料、施設清掃委託料、これは２９年度が９１万２，０００円、今回は決算では８４万２，４００円。ところによってこういう金額が浮き沈みがあると。一括でやると安くなるというところもあったり、単価が見直しがされたとかというのがあるんですが、どうしてこういう委託料というのがそれぞれの施設によって入札で行われたにしてもばらば

らになっているのか、その理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○横山文化振興課長　文化施設費の清掃委託につきましては、備前焼ミュージアムと歴史民俗資料館と加子浦を委託しておりましたけども、今回のものについては備前焼ミュージアムのみのものになっております。

○中西委員　部長、さっき加子浦のみが害虫駆除上がり、備前の歴史民俗資料館害虫駆除上がらない。施設清掃委託料は備前焼ミュージアムのみだと。清掃委託料はそれぞれのものによって値が下がったり、上がったり、でこぼこしていると。どうしてそういうような減少になってくるんでしょうか。一回これは精査をしてみる必要があるんじゃないでしょうか。

○田原教育部長　契約管財課で一括で入札等をしている分については、入札の関係で人件費の高騰であるとか、そういったところで上昇しているということがあると思います。また、害虫駆除等については精査をして、必要な場所につけて、これは毎年でなくてもいいだろうというような形、あるいは館の中で虫干しをしたり、そういったところで対応しているところもあるように聞いております。そういったところで対応しているんではないかと考えておりますが、詳細を聞いて今後の課題にさせていただきたいと思います。

○中西委員　害虫駆除と清掃委託料については一回そういうふうにお願いをしたいと思います。

ただ、清掃委託料は管財課のほうで入札なんだといってしまえばそうなんですけど、この教育委員会の中で見ただけでも２０万円もふえたところもあれば、これは人件費がふえたんだと。しかし、ここなんかは７万円減っているわけです。ほかのところも減っていると。そういうでこぼこがどうして起こるんかというのがわからない。

たしか教育委員会の遊具の点検の委託料というのは一律どどっと下がったと。これは入札で業者が変わったということで去年出ていましたけども、人件費が上がるんであればどこのところも人件費は上がってくるわけですけど、そうはなってないというのがこの委託料なんです。

○田原教育部長　職員で対応をしているというような部分もあって、そういう額になっていると思います。

○中西委員　細かくは言いませんけども、来年度の当初予算に当たっては、十分精査をしていただくようお願いをしたいと思います。

○尾川委員　関連で確認なんですけど、まず委託料の関係で、害虫駆除委託料の問題で、この害虫駆除の目的は何なんですか。するところはする、せんところはせんという今説明があったと思うたんじゃ。どういう基準で、要するにせんでもええという理由はどんなんで。

というのが、いろいろ貴重な資料、わしゃ蚊やハエを、ゴキブリも含めとんか知らんけど、資料がかなり大事なもんがあると思う。それを単なる担当者に任せたほうがええんか、プロがしたほうがええか、どっちが保存状態がいいというのはわからんよ。その辺を説明してください。

○横山文化振興課長　こういった施設については、薫蒸等をして今言われたゴキブリ等も含めてになると思いますけども、資料に影響がないようにというようなことをしていくべきかなあとい

うふうには思いますが、そういうことで内部で対応するというようなことも含めてこういうふうなことになったんだと思います。

○尾川委員　だったんだと思いますじゃねえ。そんなええかげんなことを言うたらおえるもんか。それだけ大事な資料が入っとると思うんじゃ。人間のための蚊や駆除をするんなら、ハエやこするんと違うんじゃと思うんよ。それをあんた何か人が決めるような話しするけえ、あんたが決めるんじゃねえんかなあ。そんな答弁ありゃへんよ、一番よう知っとる人が。そやから、プロにやってもらわんでも、全部素人でやりゃええが。それをはっきりしてください。

○田原教育部長　確かに、貴重な資料等を守っていかなければならないというのは備前市の文化財行政を進めていく上でも最も大事なことだと思っております。財政当局にもそのことを訴えて、ぜひそういった予算については確保していくようにしていきたいと考えております。

○尾川委員　同じ話になるけど、資料をどこまで保存していくかということは、大事なもんはきちっと残していかにゃいけんと思う。それだけの姿勢、スタンスは必要だと思うんじゃ。ただ、目先の費用節減で、こっちだけしとけ、あっちだけしとけというて、そんなええかげんなもんじゃねえと思う。それを担当者が認識して対応していく、金かけるばあじゃねえと思うよ。じゃから、ちゃんと説得して人のせえみたいに言われな。

○横山文化振興課長　御意見ごもっともだと思います。予算確保に努めてまいります。

○西上委員１８３ページ、１節報酬の中で社会教育指導員報酬が２６０万２，６００円、昨年度は１４１万２，２００円ですが、この上がった理由やら詳細、また成果など教えてください。

○竹林社会教育課長　３０年度の社会教育指導員報酬につきましては、２名分が上がっております。２９年度までは青少年対策費のほうで１人賄っておりまして、そちらのほうと措置上の入れかえでこういう増減ということになっております。

○西上委員　社会教育自体の成果など、成果を教えてください。

○竹林社会教育課長　社会教育指導員さんにつきましては、社会教育課内で主に人権対策等の関係の部門を中心的に担っていただいております。

○掛谷委員　１９４、１９５ページで、１３節の委託料の中でマラソン大会の運営委託料４００万円、これが平成３０年も同じ額で計上して、本年も済みました。平成３０年の参加人数も含め、どういった成果が上がったのか、それでことしもやっているということで、課題というのはないのでしょうか。よかったところと、例えばマラソンのコースがアップダウンが非常に大きいというようなこともあって、短い距離と長い距離がありますけども、そのあたりのところを踏まえて本年やられたと思いますけど、この辺の説明をお願いしたいんですけども。

○竹林社会教育課長　３０年度のマラソン大会につきましては、エントリー数は１，０６０名ございました。当日の参加者数につきましては９６７名ということで、参加された方の声といたしましては４年ぶりの開催だったんですけども、天候も恵まれたということでかなり満足をされたと。頭島、鹿久居島含めてたくさんの住民の方に協力もいただいて、サービスコーナー等も評判

がよかったということで伺っております。

また、今年度につきましては、さらに周知のほうをさせていただきながら、２年目ということで一応目標は１，５００名目標にということで募集を今後上げていきたいというふうに考えております。

○掛谷委員　私も全部走ってないんで、わからんのやけど、アップダウンの高低差、特に坂のところの辺のところがマラソンを走る人ですからそんなこと言よったらできませんけども、そういうのは声としてはアンケート調査みたいなんで、課題は何ぼかあったんではないかと思うんですけど。

○竹林社会教育課長　マラソンコースとしては、高低差がかなりあるということで、そういうタイムを求めてこられる方というのはかなりその辺は気になったんじゃないかと思うんですけども、多くの方が景色を眺めながら楽しんで走っていただくということを目的に来られているというような声で、かなり参加者からはそういった声で評判はよかったというふうには伺っております。

○中西委員　１９７ページ、学校給食費、別紙７というのがあるわけですが、この中で給食運搬車運転員賃金は市民協働課の担当になるということですが、この中身については厚生の決算のときにお伺いをするんですが、これは教育委員会さんのほうで協働課とまとめてやったほうがいいということでどうぞというんじゃなくて、市民協働課のほうからうちのほうが引き取らせていただきますということでこれは引き取ったものなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　スクールバスと同じく、運転員と車両、車検一括管理ということで公共交通課のほうでしておりました。今、その分を市民協働課ということで引き継いで一括管理していただいておりますので、そういった協議のほうはしておりません。

○中西委員　学校給食費の委託料のところで電気保安管理委託料、これは昨年度は８４万７，０００円、今回は８０万３，４１８円ということで、ここは４万４，０００円減額になってるんですけども、これも理由は何でしょうか。人件費が下がったのか。

○大岩教育振興課長　一括入札によります入札でこのようになっております。前年度が共同調理場の４施設、単価が１９万６，２５０円だったものが、３０年度は１８万５，９７６円ということで、単価の減でございます。

○中西委員　その４つの施設というのは、片上の調理場も含めて４つで、単価も一緒なんでしょうか。

○大岩教育振興課長　４つは共同調理場でございます。片上の給食場につきましては、片上小学校の中に含めておりますので、ここでは入ってきておりません。自校調理なので、小学校の分に含まれております。

○中西委員　じゃあ、人件費もその小学校の中のほうに入るわけですか。栄養士さんの賃金ですけど。

○大岩教育振興課長　人件費は給食のほうに入っております。

○橋本委員長　ほかにございますか。

○掛谷委員　１９７ページ、１９節負担金補助及び交付金、スポーツ少年団の活動補助金が１９４万円ほど出ております。年々スポ少が廃部されている思ってますが、平成３０年度のスポ少の団体数、地区ごとでわかれば人数も含めてどういうふうな内訳になってるのか教えてほしいし、令和については減ってるのか、近年の動向あたりを教えてください。

○竹林社会教育課長　３０年度は１９団体になっております。こちらで指導者の方が１２３名、それから団員の方で２２１名、トータル３４４名となっております。ことしの正確な数字というのは手元にございませんけど、恐らく団員数については若干減少が見られるかもしれませんが、ほぼ同様な状況かと思います。

○掛谷委員　令和元年もスポ少が余り変わらないのはいいことなんですけども、これはスポ少の人数で補助金が変わるんだと思いますけども、一番多いスポ少の団体と一番少ない団体というのはどういう団体で、どれぐらいの人数なのか、差をお聞きしたいんですけども。

○竹林社会教育課長　団体への活動費につきましては、１団体当たり５万円となっております。

○掛谷委員　じゃあ人数が仮に１０人でも、４０人でも変わりがないということは、何か一律というのはもう考えなきゃいけないと思うんですけど、そのあたりの考え直しがあるんか、どういうふうな考えでそうなってるんか、教えていただきたい。

○竹林社会教育課長　今のところはそういった声は聞かれませんけど、加盟団体さんの声も聞きながら、皆さんの同意が得られるような話であれば何か変わったやり方も考えたいと思います。

○掛谷委員　一番少ないのは何名なんですか。

○竹林社会教育課長　登録団員数で少ないところでいきますと、３名というところが団体としてはございます。多いところで２５名というところがございます。

○掛谷委員　だから、余りにも差があって、それで一律の５万円というのは、一つの考え方なんだけど、１団体に差し上げるんに、余りにも３名と２５名とでは補助するのをもう考えを変えていく必要もあるんじゃねえかなあと。議論をすることが必要ではなかろうかと。変えるのは非常に難しい、もう何事も変えるのは難しい。だけど、そういう声は上がらんというのは上がりにくいということがあります。ということで、議論をしていただいて、公平公正を保っていくほうが大事じゃないかなあと思います。部長さん、そうせえというんじゃないですよ。難しい問題ですけど、余りにも差があるんじゃないかなあと思っていますけど、どう思いますか。

○田原教育部長　市としては、スポーツ少年団に交付しております。スポーツ少年団の組織において配分については決定しているという状況でございます。確かに、市のほうがスポーツ少年団のかかわりを持ってやっておりますが、そのあたりはスポーツ少年団の自主的な運営でございますので、こういった御意見があったといったことはお伝えはしたいと思います。

○掛谷委員　こうしろというんじゃなくて、議論をされたらどうかということでお伝え願いたい

と。例えば公平公正というふうにはなかなか言いにくいですよ。５名でもほな下げるというのは難しいんですよ。だけど、まず議論はしていただければと。

○田原教育部長　こういった５万円といった金額の設定につきましても、その当時もそういった意見は議論をしております。ただ、団の決定事項でありますので、それを尊重しているというような状況でございます。こういった期間もたっておりますので、委員の方からそういった意見もあったといったことはお伝えはしたいと思います。

○田口副委員長　今の件に関してですけど、最低限の費用ということで、登録料とか、そういうものに係るお金を補填しているだけで、組織で最低限要る費用と理解してもらえればいいかなと思います。

○青山委員　１９５ページの保健体育費、保健体育総務費、１節の報酬のスポーツ推進委員の報酬ということなんですけど、スポーツ推進委員は今現在何名で、どういったようなことをされているか、教えてください。

○竹林社会教育課長　スポーツ推進員さんにつきましては、現在各地区から出てきていただいて、２２名活動いただいております。中心的なのが、まずきのうありましたスポーツフェスティバル、こういったところでは体育館においてニュースポーツ体験ということでいろいろ事前に準備をいただきながら協力のほうをいただいております。

○青山委員　その下にスポーツ推進審議会委員報酬というのがあるんですが、こちらのほうは何名、どういったような方が選ばれて、どういう内容のことをされているのか。

○竹林社会教育課長　推進審議会さんにつきましては、８名おられます。主にスポーツ関係についての指導者の養成とか、実施内容、スポーツ施策の状況等について会合において意見をいただくということで、各種団体さんの代表者さん等から構成されております。

○青山委員　各種団体というのは、どういうふうな団体になりますか。

○竹林社会教育課長　主には体育協会さん、スポーツ少年団の本部、それから小・中学校の代表、先生方、それから先ほどありましたスポーツ推進員さん等の代表者等から成っております。

○青山委員　どういうふうな内容のことを話し合われたんですか。

○竹林社会教育課長　こちらはスポーツ関係全般についてということですので、条例上でいきますと施設の整備とかもあわせて指導者の育成、それからスポーツ事業の実施などの内容について議論をいただいております。

○青山委員　これは研修会の開催とか、そういったようなことも話し合われるんですか。

○竹林社会教育課長　そこまでは中身にあったかどうか把握はできておりません。

○青山委員　最後にしますけど、スポーツ基本計画という１０年の計画は常に評価をして、見直しの意見なんかというのは出てくるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　先般、一般質問等でもございましたけど、見直しの時期が近いということで、この見直しの内容につきましてもこちらの推進審議会さんのほうにいろいろ調整を図りなが

らやっていく予定にしております。

○尾川委員　前へ戻るんですけど、１９３ページの文化施設費の中で備品購入費、施設整備備品が２８万８００円、施設備品が９万６，７６８円、どうもよう似たような字が書かれとんじゃけど、この違いというのは何でしょうか。同じにすりゃあええような気がすんじゃけど、中身が違うから区分しとんじゃと思うとんですけど、説明してください。

○横山文化振興課長　まず施設整備備品ですけども、こちらについては施設についている空調機になります。今回は空調機を２台です。施設備品につきましては、写真撮影をするためのランプ、スタンド一式を購入したものになります。そういった施設に設置しているものと、備品として利用しているものとの違いになります。

○中西委員　１９５ページのところで、もう一度負担金補助及び交付金、ＦＯＳ少年団補助金、先ほどのお話ですと吉永と日生に案分して出しているというようなお話でしたけども、この補助金の繰り出しの要綱とか、あるいはそれに類するようなものはあるんでしょうか。

○竹林社会教育課長　手元にはございませんので、確認させていただき、後刻資料提出いたします。

○掛谷委員　１９７ページ、１８節備品購入費、ここでは体育施設の備品が１，２３５万６，２８０円、結構な額なんで、どういう体育施設の備品を購入されたのかお聞きしたいと思います。

○竹林社会教育課長　内訳ですけども、陸上競技場の投てき用の囲いが７５４万７，０４０円、それから棒高跳び用のマットが２８６万９，５６０円、投てき用の距離標識が１２９万６，０００円となっております。

○橋本委員長　ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の項目に移ります。

２００ページから２０３ページで諸支出金のうちの積立金に関して文教関係のかかわるもので質疑を希望される方はおられますか。

○中西委員　２０１ページの積立金、米百俵基金積立金、全体の中では支出のところで項目がありませんでしたので、ここでお伺いをさせていただきたいと思います。

この米百俵基金積立金、この年度は何か有効に活用されたというのはあるんでしょうか。

○大岩教育振興課長　米百俵基金の３０年度の使用した事業でございますけども、私どもの教育振興課のほうで片上高校魅力化検討委員会ということでパンフレット等をつくりました。それが約２４万１，０００円、それから学校教育課の特色ある学校ということで３３１万円、それから社会教育課のほうでふるさと創生カレッジの事業費に約２００万円、それから秘書広報課の楷の木賞のほうに約１０万５，０００円、市民協働課の協働事業ということで３５万円、それから産業観光課の創業奨励金ということで５０万円、計６５１万１，５８２円を事業費のほうに充当しております。

この効果につきましては、２億５，０００万円最初積み立てたときに６事業のほうに最初は重点的に配分して事業をしていくということで、本年度は１年目ということでこの事業に主に充当してまいりました。米百俵基金の創始目的である人を育てる事業というんですか、そういったところに充てていくということで、当初の６事業にこう充ててまいりました。

今後、またこの事業の内容を検討いたしまして、次年度以降も使ってまいりますけども、最初の導入段階で附帯決議もございまして、基金を財源とする事業は必要最小限度、費用対効果をよく考えて市民に理解を得られるよう使用するように言われておりますので、そういったことも考慮しながら今後事業展開していきたいと考えております。

○中西委員　この事業につきましては、繰り出しの要綱あるいは規則はあるんでしょうか。

○大岩教育振興課長　要綱はございません。基金条例があるということです。

○中西委員　それと、今年度はこういう形で使われたわけですけども、例えば３１年あるいは３２年、どういうもので使うんかというのは前もって設定されてこの基金というのは使われるんですか。それとも、こういう事業でお願いをしたいということであれば、そういうものがその年度でも使われるものなんですか。

○大岩教育振興課長　住民の主体的な学びへの支援を重視するということで、人づくりのための基金の創設でございましたので、そういった事業を各課が今後上げてくるんでしょうけど、その中でその米百俵基金を有効に活用するというのは、そこは財政サイドとも相談になってくるんですけども、そういったことを考えながら運用していくということになろうかと思います。

○橋本委員長　諸支出金でほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでございます。

それでは、歳入歳出を通じて文教関係、質疑漏れはございませんか。

○星野委員　教育のＩＣＴ化についてなんですが、先ほど議論がありましたが、ＩＣＴ機器の更新、プログラミング教育に向けた環境整備など、今後も多額な費用がかかってくるようになりますが、地方財政措置、教育情報化関連部分として普通交付税でどれだけ算入されているかっていうのは把握されているんでしょうか。

○大岩教育振興課長　ＩＣＴ機器の導入ということで、国のほうで基準財政需要額のほうに算入ということで、交付税の単価の中にはＩＣＴが何ぼというのは含まれているんですけど、備前市にそれが何ぼ入ってきとるかというのは算定のほうではいたしておりません。

○星野委員　文科省で教育のＩＣＴ化に向けた環境整備５か年計画２０１８から２０２２年度、これを策定して２０１８年度から２２年度まで単年度で１，８０５億円の地方財政措置を講じていますよね。こういうお金がどんだけ入っているかっていうのは全然把握してないんですか。

○大岩教育振興課長　実際の市の歳入でどれくらい入ってきているかというのは計算しておりません。

○星野委員　財政課との交渉というのはどうされているんですか。

○大岩教育振興課長　交渉といいますと予算の中でこういった事業をということで要求しますけども、その中で交付税がこれだけ入ってきますんでというような話は交渉過程では入ってきません。

○星野委員　幾らぐらい入ってくる見込みがあるからこういう予算をつけてくださいっていうふうに交渉するんじゃないんですか。じゃないと、今後ＩＣＴ機器、タブレットの更新もありますし、プログラミング教育の環境整備もありますよね。かなり金額かかりますけど、そういう交渉ってうまくできるんですか。

○大岩教育振興課長　文科省の算定というのが３人に１人だったと思うんです。３人に１人であるとか、ネット環境の充実ということで高速通信のほうをつくる場合に需要額の中に算定するというような考え方だったと思うんですけど、備前市に、その事業が備前市に当てはまるかといえば、その文科省の交付税算入の事業的なものは今の段階では備前市には当てはまっていないのかなとは考えておりますので、算定しないということでございます。

○星野委員　交付税算入額のうち教育情報関連経費、備前市が交付税が約５６億８，０００万円ですか。そのうち約７，６００万円ぐらい算入されているという情報をつかんでいるんですよ。しっかりそういう情報を集めて財政課とこういう機器、子供たちのためにこういう機器を入れてほしいっていうのをしっかり交渉していただきたいんですが、部長はどうお考えですか。

○田原教育部長　ＩＣＴ機器の整備に関しては、かなりの多額の費用、もうふるさと納税も昔みたいに入らないといったところで、財源の確保というのは最も大事なことと考えております。そういったところで、財源をこちらのほうでも補助金であるとか、有効な資金、そういったものを研究、調査して、財政当局との交渉にも臨んでいきたいと考えております。

○星野委員　よろしくお願いします。

○中西委員　１７１ページ、教育総務費の事務局費の中で委託料、前年度までは電気保安管理委託料というのがあったんですが、３０年の当初の予算でも出てない。つまり３０年度は必要がなかったということが当初から言われていたわけなんですけども、どうしてなんでしょうか。

○大岩教育振興課長　この電気保安管理委託料なんですけども、神根小学校の高圧電流の分でございまして、廃校になりましたので、１万２００円が６カ月分は前年度の計上でございます。ただ、３０年度は貸し付けしておりますので、うちのほうでは払っておりません。

○中西委員　もう一つだけ。害虫駆除の委託料が当初の予算では１３万円組まれていました。決算では出てこないんですけども、どうして決算に出てこないんでしょうか。

○大岩教育振興課長　主にスズメバチの駆除を委託できたらと考えていたんですけど、直営でスズメバチ駆除しておりますので、使っておりません。

○橋本委員長　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で議案第９７号平成３０年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定についてのうち教育部関係の全ての審査を終了します。

それでは、これをもちまして予算決算審査委員会を閉会します。

次回は２９日火曜日、午前９時３０分から市民生活部、保健福祉部ほか関係の審査を行いますので、よろしくお願いいたします。

皆さん、御苦労さまでした。

午後３時５６分　閉会